

Oracle Forms Server and Oracle Reports Server for Sun SPARC Solaris

インストレーション・ガイド

リリース 6*i*

2000 年 4 月

部品番号 : J01539-01

ORACLE[®]

Oracle Forms Server and Oracle Reports Server for Sun SPARC Solaris
インストール・ガイド リリース 6i

部品番号 : J01539-01

原本名 : Oracle Forms Server and Reports Server Installation Guide Release 6i for Sun SPARC Solaris

原本部品番号 : A82818-01

Copyright © 1999, 2000, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	vii
1 機能と要件	
概要	1-1
インストールの概要	1-2
クライアント専用のインストール	1-3
クライアント専用の構成	1-3
サーバーベースのインストール	1-4
サポートしているユーザー・インタフェース	1-5
オンライン・マニュアルとオンライン・ヘルプ	1-5
インストレーション・ガイド	1-5
状況判断オンライン・ヘルプ	1-6
キュー・カード	1-6
関連資料	1-7
Oracle8 Server for Sun SPARC Solaris マニュアル	1-7
システム要件	1-7
ハードウェア要件	1-7
オペレーティング・システム要件	1-8
ユーザー・インタフェース要件	1-9
リリース 6i で必要な Solaris 用 Motif パッチ	1-9
Oracle Forms Server および Oracle Reports Server のサーバー要件	1-9
再リンク要件	1-10
ディスク領域要件とメモリー要件	1-10
問題点と制限事項	1-12
Oracle WebServer のインストール	1-12

各国語サポート (NLS)	1-12
---------------------	------

2 環境の設定

インストール前の作業の実行	2-1
Oracle ソフトウェアに対する UNIX アカウントの作成	2-1
データベース・オブジェクトのインストールまたはアップグレードの選択	2-2
tnsnames.ora ファイルの設定	2-3
環境変数の設定	2-4
環境変数の構文	2-4
DISPLAY 変数の設定	2-5
LD_LIBRARY_PATH 変数の設定	2-5
ORACLE_AUTOREG 変数の設定	2-5
ORACLE_BASE 変数の設定	2-6
ORACLE_HOME 変数の設定	2-6
ORACLE_TERM 変数の設定	2-6
TWO_TASK 変数の設定	2-7
ORA_NLS33 変数の削除	2-7

3 インストール作業

製品インストール CD-ROM のマウント	3-1
CD-ROM の自動マウント	3-1
CD-ROM の手動マウント	3-2
Oracle Forms Server のインストール	3-2
Installer の起動	3-2
インストールのカスタマイズ	3-3
インストール・アクティビティとオプションの選択	3-5
デフォルト設定の確認	3-6
Software Asset Manager の設定	3-7
コンポーネントの選択	3-8
マシン構成の選択	3-8
単一マシン構成の設定	3-9
複数マシン構成の設定	3-10
プライマリ・ノードの設定	3-11
セカンダリ・ノードの設定	3-12

Oracle Forms Server の使用方法	3-14
Oracle Forms Server の起動と停止	3-14
Oracle Forms Server の Web からのテスト	3-15
Oracle Reports Server の設定	3-15
Oracle Reports Server の使用方法	3-17
Oracle Reports Server の起動と停止	3-17
Oracle Reports Server の Web からのテスト	3-17
データベース・オブジェクトの作成またはアップグレード	3-17

4 インストールの完了

インストールの検証	4-1
プリンタ構成ファイルの設定	4-2
使用するプリンタ用の PPD および AFM ファイルの検索とインストール	4-2
デフォルト・プリンタの設定	4-3
Toolkit フォント・マップ・ファイルの更新	4-4
プリンタ・コマンドの設定 (オプション)	4-6
デフォルト・プリンタの指定	4-7
HP PCL プリンタへの印刷	4-7
印刷機能のテストとエラーの修正	4-9
環境の設定	4-9
LD_LIBRARY_PATH 変数の設定	4-9
GUI の設定	4-10
X および OSF/Motif に関する問合せ	4-10
キー定義ファイルの再配置	4-11
X Window システム環境と Motif 環境の設定	4-12
Windows クライアントの設定	4-14
Oracle Jinitiator の設定	4-14
Applet Viewer の設定	4-14
その他の言語の使用可能化	4-14
NLS_LANG 変数の設定	4-15
Tk2Motif*fontMapCs の設定	4-16

5 管理

Oracle Forms の管理	5-1
Oracle Forms 実行ファイル	5-1

Oracle Forms の Web での利用	5-1
Oracle Forms の再リンク	5-2
Oracle Reports の管理	5-2
Oracle Reports 実行ファイル	5-2
Oracle Reports の Web での利用	5-2
Oracle Reports の再リンク	5-2
Oracle Graphics の管理	5-3
Oracle Graphics 実行ファイル	5-3
Oracle Graphics の Web での利用	5-3
Oracle Graphics の再リンク	5-3

6 ユーザー・イグジットの作成

ユーザー・イグジットの作成	6-1
作成したユーザー・イグジットへのリンク	6-2
Oracle Forms へのリンク	6-2
Oracle Reports へのリンク	6-2
Oracle Graphics へのリンク	6-3

索引

はじめに

目的

このドキュメントでは、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server リリース 6i のインストール方法と構成情報を説明します。

ここでは、次のトピックについて説明します。

- [対象読者](#)
- [表記規則](#)
- [コマンド構文](#)
- [関連文書](#)
- [オラクル社のサービスおよびサポート](#)

対象読者

このマニュアルは、データベース管理者および UNIX オペレーティング・システムへの Oracle 製品のインストール担当者を対象としています。このマニュアルではコマンドの例を示していますが、Oracle または UNIX の管理について学習することを目的としていません。

表記規則

等幅フォント	等幅文字は、UNIX コマンド、ディレクトリ名、ユーザー名、パス名およびファイル名を表します。
大カッコ []	大カッコ内の単語は、キー名を表します（例：[Return] を押します）。ただし、コマンド構文内で使用されている場合は別の意味があります。
イタリック	イタリック文字は、ファイル名の変数部を含め、変数を表します。強調を表すときにも使用されます。
大文字	大文字は、構造化照会言語（SQL）の予約語、初期化パラメータおよび環境変数を表します。

UNIX では大文字と小文字が区別されるため、このマニュアルの規則は他の Oracle 製品マニュアルとは異なる場合があります。

コマンド構文

コマンド構文は、等幅フォントで示します。コマンド構文には、次の規則が適用されます。

円記号 ¥	円記号は、コマンドが 1 行に収まりきらないことを表します。表示されているとおりに円記号を付けて入力するか、または円記号を付けずに 1 行で入力します。 <pre>dd if=/dev/rdisk/c0t1d0s6 of=/dev/rst0 bs=10b ¥ count=10000</pre>
中カッコ {}	中カッコは、必須項目を表します。 <code>.DEFINE {macro1}</code>
大カッコ []	大カッコはオプション項目を表します。 <code>cvtcrt termname [outfile]</code> ただし、通常の文字列で使用されている場合は別の意味があります。
省略記号 ...	省略記号は類似項目が任意の数だけ続くことを表します。 <code>CHKVAL fieldname value1 value2 ... valueN</code>
イタリック	イタリック文字は変数を表します。変数には値を代入します。 <code>library_name</code>
縦線	縦線は中カッコまたは大カッコ内の選択肢を表します。 <code>SIZE filesize [K M]</code>

関連文書

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server に関する詳細は、『Oracle Forms Developer and Oracle Reports Developer アプリケーション作成ガイド』を参照してください。このドキュメントでは Oracle Browser、Oracle Forms、Oracle Graphics、Oracle Procedure Builder、Oracle Project Builder および Oracle Reports について説明しています。

このドキュメントを参照するには、Web ブラウザを使用して
\$ORACLE_HOME/doc60/admin/manuals/JA/guide60/atgtoc.htm を表示させます。

オラクル社のサービスおよびサポート

Oracle 製品に関する広範な情報とグローバル・サービスは、インターネット上の <http://www.oracle.co.jp> から利用できます。次の項では、特定のサービスの URL を示します。

オラクル社のカスタマ・サポート

カスタマ・サポートについては、<http://www.oracle.co.jp/support/> を参照してください。このページには、オラクルが提供する各種サポート・サービスメニューがリストされています。この問合せには、CSI 番号（該当する場合）または特定のプロジェクト情報を含む詳細な製品サポート情報も必要になります。

教育およびトレーニング

トレーニング情報および世界中のスケジュールは、<http://www.oracle.co.jp/seminar/> から入手できます。

Oracle テクノロジ・ネットワーク

Oracle Technology Network (OTN) への登録は、<http://technet.oracle.com> で行ってください。OTN では、Oracle テクノロジに基づくアプリケーションを効率的に開発し、配布するため、技術情報誌、コード・サンプル、製品ドキュメント、セルフサービス開発者サポートおよび Oracle 開発者向けの主要製品群を提供しています。（OTN は米国オラクルによるサイトです。）

機能と要件

インストールを短時間で正常に終了できるかどうかは、ローカル・システムが Oracle ソフトウェアのソフトウェア要件を満たしているかどうか、システムに十分な空き領域が確保されているかどうかによって決まります。この章では、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server リリース 6i を Solaris 上にインストールする場合の要件について説明します。インストールを開始する前に、システムがこれらの要件を満たしていることを確認してください。

この章では、次のトピックについて説明します。

- [概要](#)
- [インストールの概要](#)
- [サポートしているユーザー・インタフェース](#)
- [オンライン・マニュアルとオンライン・ヘルプ](#)
- [関連資料](#)
- [システム要件](#)
- [ディスク領域要件とメモリー要件](#)
- [問題点と制限事項](#)

概要

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server は、複数のプラットフォーム、ユーザー・インタフェースおよびデータ・ソースをサポートするデータベース・ツールの統合セットです。これらのツールは Oracle Toolkit と呼ばれるレイヤーに構築され、これにより基本となるユーザーインタフェースに統一されたプログラミング・インタフェースが提供されます。Oracle Toolkit を使用すると、Motif や Windows などの複数のユーザー・インタフェースで稼動するアプリケーションを作成でき、それぞれのインタフェースのルック・アンド・フィールをそのまま使用できます。

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server のインストールは、次のステップで行います。

1. 前提条件の確認：ローカル・システムが、インストールする製品のハードウェア、ソフトウェア、メモリーおよびディスク領域要件を満たしていることを確認します。これらの要件および制限事項はこの章で説明します。
2. UNIX 環境のチェック：インストールする製品に対して UNIX 環境が適切に設定されていることを確認します。第 2 章「環境の設定」を参照してください。
3. インストール：Oracle ソフトウェアのインストールには、Oracle Installer を使用します。第 3 章「インストール作業」を参照してください。
4. インストール後：データベース・オブジェクトを作成し、ユーザー環境を設定し、インストールした Oracle 製品をローカル・システム用に設定します。第 4 章「インストールの完了」および第 5 章「管理」を参照してください。
5. ユーザー・イグジットの作成：このオプションのステップは、第 6 章「ユーザー・イグジットの作成」で説明します。

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server リリース 6i を使用すると、ワールド・ワイド・ウェブ (WWW) 上にアプリケーションを展開できます。

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server ツールは、標準のアプリケーション・プログラミング・インタフェース (API) を使用して構築されており、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server 製品セットを他のベンダーのツールで補完することが可能です。

表 1-1 は、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server がサポートしている製品を説明します。

表 1-1 Oracle Forms Server および Oracle Reports Server がサポートしている製品

Oracle Forms リリース 6i	Oracle Forms は、Oracle8 Server データにアクセスする対話型アプリケーションの作成および配置に使用します。
Oracle Graphics リリース 6i	Oracle Graphics は、データベースに動的にリンクしたマルチメディアのグラフィカルな図表の作成に使用します。
Oracle Reports リリース 6i	Oracle Reports は、Oracle8 Server データにアクセスするレポートの作成および生成に使用します。

インストールの概要

この概要では、クライアント専用のインストール、クライアント専用の構成、およびサーバーベースのインストールを説明します。

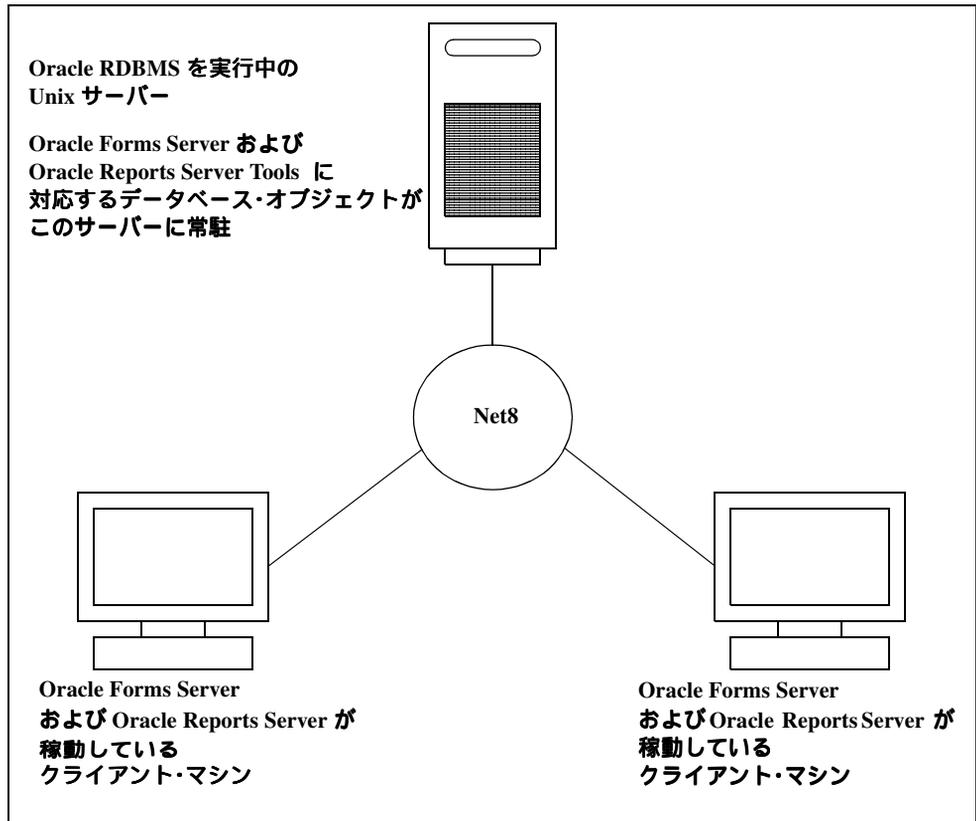
クライアント専用のインストール

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server Tools は、Tools がアクセスする Oracle Database Server ソフトウェアを含む ORACLE_HOME ディレクトリとは別の ORACLE_HOME ディレクトリにインストールできます。クライアント専用のインストールは、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server ソフトウェア、データベース・オブジェクトおよび Oracle Net8 で構成されます。データベース・オブジェクトはサーバーごとに一度インストールするのみですが、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server Tools は、サーバーへのアクセスに使用する各システムにインストールする必要があります。

クライアント専用の構成

図 1-1 では、Oracle Net8 によってデータベース・サーバーに接続されたクライアント・マシンに Oracle Forms Server および Oracle Reports Server をインストールする場合の構成を示しています。

図 1-1 クライアント専用のインストール



サーバーベースのインストール

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server リリース 6i を、サーバーベースでインストールするには、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server および Oracle Database Server リリース 8.0.6 を同じ ORACLE_HOME ディレクトリ上にインストールし、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server Tools をローカル・データベースに接続します。このオプションは、以前のリリースでは使用できません。

注意： Oracle Forms Server および Oracle Reports Server は、Oracle Database Server リリース 8.0.6 を使用した、サーバーベースのインストールのみをサポートします。

サポートしているユーザー・インタフェース

表 1-2 では、Solaris 上の Oracle Forms Server および Oracle Reports Server リリース 6i Tools による、キャラクタ・モード、Motif、および Web の各インタフェースのサポート状況を示します。

表 1-2 Oracle Forms Server および Oracle Reports Server リリース 6i Tools

Oracle 製品	キャラクタ・モード	Motif (v1.2.3)	Web
Oracle Browser リリース 6i	しない	する	しない
Oracle Forms リリース 6i	する	する	する
Oracle Graphics リリース 6i	しない	する	する
Oracle Reports リリース 6i	する	する	する
Oracle Procedure Builder リリース 6i	しない	する	しない
Oracle Project Builder リリース 6i	しない	する	しない

注意： Oracle Forms Server および Oracle Reports Server にはキャラクタ・モード・デザイナーがなく、Oracle Graphics と Oracle Browser 用のキャラクタ・モード・ランタイム・コンポーネントもありません。Oracle Forms Server および Oracle Reports Server 製品すべてのデザイナー・コンポーネントと、Oracle Graphics および Oracle Browser 用ランタイム・コンポーネントでは、Motif グラフィカル・ユーザー・インタフェースのみをサポートします。

オンライン・マニュアルとオンライン・ヘルプ

インストレーション・ガイド

『Oracle Forms Server and Oracle Reports Server for Sun SPARC Solaris』のマニュアル（英語版）は、配布される Oracle 製品に含まれています。マニュアルを参照するには、ブラウザを使用して CD-ROM 上の `/oracle/unixdoc/server/index.htm` ファイルを開きます。index.htm ファイルには、各プラットフォーム固有のマニュアルへのリンクが含まれています。Oracle 製品マニュアルの表示に使用するブラウザは、HTML level 3 をサポートしている必要があります。

システムにブラウザがインストールされていない場合は、オラクル社が提供するブラウザを使用してください。オラクル社が配布する製品には、キャラクタ・モード・ブラウザと Motif ブラウザが共に含まれています。これらのブラウザは、インストールすることも CD-ROM から直接実行することもできます。ブラウザは、`/oracle/orainst` ディレクトリにあります。

ブラウザを起動するには、次のように入力します。

```
$ cd mount_point_directory/oracle/orainst
$ ./oraview
```

oraview スクリプトを実行すると、システムに対応したブラウザが起動されます。
oraview スクリプトの詳細を表示するには、次のように入力します。

```
$ ./oraview -h
```

状況判断オンライン・ヘルプ

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server には、状況判断オンライン・ヘルプ・システム（英語版）が用意されています。オンライン・ヘルプにアクセスするには、「ヘルプ」メニューから「トピック」を選択します。たとえば、Reports プロパティ・シートの作業中に現在の設定に関する情報が必要な場合は、「Contents」を選択します。その設定に関する 1 ページ以上の情報を含んだウィンドウが表示されます。表示されたページがウィンドウの表示範囲を超える場合は、「下へスクロール」を使用して残りのページを表示します。ヘルプ・ファイルを読み終えたら「終了」を選択します。

キュー・カード

キュー・カードでは、一般的な作業手順をステップごとに説明します。キュー・カードにアクセスするには、「ヘルプ」プルダウン・メニューを選択し、「キュー・カード」を選択します。Solaris 上では、「Show Me」ボタンを使用すると、キュー・カードで AVI ビデオ・ファイルを再生することができます。

ビデオ・ファイルを再生するには、xanim などの外部ビデオ・プレーヤ・プログラムをマシンにインストールする必要があります。また MMTK_AVIFPLAYER 環境変数を、AVI ビデオ・ファイルを再生するビデオ・プレーヤ・プログラムを指定するように設定する必要があります。MMTK_AVIFPLAYER は次のように設定します。

Bourne または Korn シェルの場合、次のように入力します。

```
$ MMTK_AVIFPLAYER="video_player_name %s &"; export MMTK_AVIFPLAYER
```

C シェルの場合、次のように入力します。

```
% setenv MMTK_AVIFPLAYER "video_player_name %s &"
```

この場合、

`video_player_name` AVI ビデオ・プレーヤ・プログラムの名前です。

& ビデオ・プレーヤを強制的にバックグラウンドで実行します。

関連資料

Oracle8 Server for Sun SPARC Solaris マニュアル

追加情報を説明している次のドキュメントは、製品 CD-ROM に HTML 形式で収録されています。

- 『Oracle8 インストレーション・ガイド for Sun SPARC Solaris』
- 『Oracle8 管理者リファレンス for Sun SPARC Solaris』

システム要件

この項では、Solaris に Oracle Forms Server および Oracle Reports Server をインストールする場合のシステム要件について説明します。

ハードウェア要件

表 1-3 では、Solaris に Oracle Forms Server および Oracle Reports Server をインストールし、実行する場合のハードウェア要件を示します。

表 1-3 Solaris ハードウェア要件

ハードウェア項目	要件
CPU	SPARC ベースのシステム
メモリー	32MB 以上の内部メモリー (RAM)
スワップ領域	物理 RAM の 2 ~ 4 倍
メディア・デバイス	High Sierra 標準形式の読込みが可能な CD-ROM ドライブ
GUI Tools 用表示デバイス	Sun OpenWindows 搭載の Sun ワークステーション

オペレーティング・システム要件

表 1-4 では、Solaris に Oracle Forms Server および Oracle Reports Server をインストールし、実行する場合のオペレーティング・システム要件を示します。

表 1-4 オペレーティング・システム要件

ソフトウェア項目	要件
オペレーティング・システム	Solaris 2.5.1 または Solaris 2.6 (SunOS 5.5.1 または SunOS 5.6)
	注意: 必要なパッチの情報については、1-9 ページの「リリース 6i で必要な Solaris 用 Motif パッチ」を参照してください。
Solaris パッケージ: SUNWarc SUNWbtool SUNWhea SUNWlibm SUNWlibms SUNWsprot SUNWtoo	これらのパッケージは、Oracle Server のインストール以前にインストールされている必要があります。
SUNWmfrun	Solaris 用の GUI ツールとして必要です。

オペレーティング・システムおよび CPU の種類を判断するには、次のように入力します。

```
$ uname -a
```

必要なソフトウェア・パッケージがインストールされているかどうかを判断するには、次のように入力します。

```
$ pkginfo -i SUNWbtool SUNWtoo SUNWsprot SUNWarc SUNWlibm SUNWlibms SUNWhea  
SUNWmfrun
```

このコマンドを実行すると、インストールした各パッケージの説明が表示されます。パッケージの情報が何も表示されない場合、そのパッケージをインストールする必要があります。

ユーザー・インタフェース要件

表 1-5 では、Solaris に Oracle Forms Server および Oracle Reports Server をインストールし、実行する場合のユーザー・インタフェース要件を示します。

表 1-5 ユーザー・インタフェース要件

ソフトウェア項目	要件
Window Manager	Motif Window Manager mwm、OpenWindows Window Manager olwm、または Desktop Window Manager dtwm
X11 Server	Sun OpenWindows Server 3.4 以上

リリース 6i で必要な Solaris 用 Motif パッチ

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server リリース 6i には、Solaris 2.5.1 または 2.6 システムに対応する「大規模」な Sun Motif ランタイム・ライブラリ用パッチが必要です。パッチをインストールしないで実行すると、突発的なアプリケーション・クラッシュや過剰なメモリー使用量などの問題が発生する可能性があります。共通デスクトップ環境 (CDE) ウィンドウ・システムを使用している場合は特に、パッチをインストールすることが重要です。

表 1-6 に、Solaris の各バージョンで必要となるパッチ番号を示します。

表 1-6 パッチ番号

オペレーティング・システムのバージョン	Sun パッチ番号
Solaris 2.5.1	103461-07 以上
Solaris 2.6	105284-20 以上

Solaris の `showrev -p` コマンドを使用して、システムに現在インストールされている Sun パッチを調べることができます。

必要な Solaris パッチの最新バージョンについては、Sun 社技術サポートにお問い合わせください。Sun 用のパッチ 103461-07 および 105284-20 は、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server CD-ROM の `/cdrom/oracle/Solaris_patches` ディレクトリにあります。インストール手順は、パッチ・ディレクトリ内の README ファイル内にあります。オペレーティング・システム・パッチをインストールするには、root 権限が必要です。

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server のサーバー要件

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server リリース 6i は、Oracle8 Server リリース 8.0.6 のみをサポートします。

表 1-7 は、Solaris で Oracle Forms Server および Oracle Reports Server を使用する場合は Web サーバー要件を示しています。:

表 1-7 Forms Web Server 要件

データベース項目	要件
Web サーバー	非カートリッジ実装: WebDB 2.2、Oracle Application Server 4.0.8.1 または Java アプレットの転送をサポートする Web サーバー カートリッジ実装: Oracle Application Server 4.0.8.1

注意: Oracle Forms Server および Oracle Reports Server と Oracle Application Server は、同一の \$ORACLE_HOME にインストールしないでください。

再リンク要件

Motif Oracle Forms Server および Oracle Reports Server Tools は、Motif および X11 の動的ライブラリを使用して再リンクできます。

配布される Oracle Forms Server および Oracle Reports Server には、キャラクタ・モードの Oracle Forms Server および Oracle Reports Server Tools の再リンクに必要なすべてのコンポーネントが用意されています。

ディスク領域要件とメモリー要件

表 1-8 に、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server のディスク領域、データベース領域、およびメモリー要件を示します。下記の値は最小限の見積りによる値で、正確な計算値ではありません。

総ディスク領域要件を計算するには、インストールに必要な製品とオプションを選択します。「配布」列と「DB 領域」列の値をそれぞれ合計します（インストールする製品とオプションのみを加算します）。2 つの列の合計を加算して、インストールに必要な合計ディスク領域を求めます。

表 1-8 領域要件

製品とオプション	配布 (MB)	DB 領域 (MB)
GUI Common Area	40.3	0.53
Oracle Forms	117.0	0.32
Runtime (Character)	3.5	0.00
Builder (Motif)	3.5	0.00

表 1-8 領域要件

製品とオプション	配布 (MB)	DB 領域 (MB)
Runtime (Motif)	3.5	0.00
Generator (Character)	3.5	0.00
Generator (Motif)	3.5	0.00
Runtime (Web)	3.5	0.00
Oracle Reports	66.3	0.39
Converter	3.9	0.00
Builder (Motif)	3.9	0.00
Migration Utility	0.2	0.00
Runtime (Character)	3.9	0.00
Runtime (Motif)	4.0	0.00
CGI Executable	0.3	0.00
Multi-tier server	0.4	0.00
Client (Web)	0.3	0.00
Webcartridge	0.3	0.00
Oracle Graphics	39.5	0.12
Builder (Motif)	3.8	0.00
Runtime (Motif)	3.8	0.00
Batch	3.8	0.00
Oracle Browser	28.0	0.04
Query Builder	0.3	0.00
Schema Builder	0.3	0.00
Oracle Procedure Builder	20.0	0.00
Procedure Builder (Motif)	3.0	0.00
Oracle Installer	57.3	0.00
Oracle Project Builder	9.2	0.00
Project Builder (Motif)	0.6	0.00
Oracle Documentation Library	504.0	0.00

表 1-8 領域要件

製品とオプション	配布 (MB)	DB 領域 (MB)
Oracle Common	177.7	0.00
Oracle JDK Appletviewer	13.8	0.00
Oracle Jinitiator	8.9	0.00
配布総領域 / データベース総領域		
総ディスク領域 = (配布総領域 + データベース総領域)		

問題点と制限事項

この項では、Oracle WebServer のインストール時に適用される制限事項および Oracle Forms Server および Oracle Reports Server で利用可能な言語について説明します。

Oracle WebServer のインストール

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server オプションを使用している場合、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server と Oracle Application Server 4.0.8.1 は同一の \$ORACLE_HOME にインストールしないでください。

各国語サポート (NLS)

Oracle Forms Server 用のメッセージ・ファイルとリソース・ファイル、および Oracle Reports Server 用のメッセージ・ファイルでは、次の言語が使用可能です。

- 英語 (U.S.)
- アラビア語
- 中国語、簡体字 (中国本土)
- 中国語、繁体字 (台湾および香港)
- クロアチア語
- チェコ語 (チェコ共和国)
- デンマーク語
- オランダ語 (オランダ)
- フィンランド語
- フランス語 (カナダ)
- フランス語 (ヨーロッパ)

- ドイツ語
- ギリシア語
- ヘブライ語
- ハンガリー語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ノルウェー語
- ポーランド語
- ポルトガル語 (ブラジル)
- ポルトガル語 (イベリア)
- ルーマニア語
- ロシア語
- スウェーデン語
- スロバキア語 (スロバキア)
- スロベニア語
- スペイン語 (イベリア)
- スペイン語 (ラテンアメリカ)
- タイ語
- トルコ語

Oracle Reports Server 用リソース・ファイルでは、次の言語が使用可能です。

- 英語 (U.S.)
- 中国語、簡体字 (中国本土)
- 中国語、繁体字 (台湾および香港)
- オランダ語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語

- 韓国語
- スペイン語（イベリア）

環境の設定

第1章「機能と要件」に記載されている要件をシステムが満たしていることを確認してからこの章を読み、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server をインストールするための環境を準備してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [インストール前の作業の実行](#)
- [環境変数の設定](#)

インストール前の作業の実行

次に挙げるインストール前の作業を実行します。

- [Oracle ソフトウェアに対する UNIX アカウントの作成](#)
- [データベース・オブジェクトのインストールまたはアップグレードの選択](#)
- [tnsnames.ora ファイルの設定](#)

Oracle ソフトウェアに対する UNIX アカウントの作成

注意： このステップを実行するには、システムに対するルート・アクセス権が必要です。

oracle アカウントは、インストール後に Oracle Forms Server および Oracle Reports Server ソフトウェアが所属する UNIX アカウントです。Installer は、このアカウントから実行する必要があります。

Solaris では、`root` としてログインし、オペレーティング・システム管理ユーティリティである `useradd` を使用して、次のプロパティが含まれる `oracle` アカウントを作成します。

ログイン名	任意の名前。このドキュメントでは <code>oracle</code> アカウントと呼びます。
デフォルト GID	OSDBA グループに対応しています。
ホーム・ディレクトリ	他のユーザー・ホーム・ディレクトリと一貫性のあるホーム・ディレクトリを選択します。 <code>oracle</code> アカウントのホーム・ディレクトリは、 <code>ORACLE_HOME</code> ディレクトリと同じである必要はありません。
ログイン・シェル	デフォルトのシェルは、 <code>/bin/sh</code> 、 <code>/bin/csh</code> または <code>/bin/ksh</code> のいずれかです。このマニュアルでは、Bourne シェル (<code>/bin/sh</code>) を例にしています。

注意： `oracle` アカウントは、Oracle ソフトウェアのインストールおよびメンテナンスのみに使用してください。Oracle ソフトウェアと無関係の目的には使用しないでください。`oracle` (UNIX) アカウントを使用しているときにデータベースにログインしないでください。`oracle` アカウントとして `root` を使用しないでください。

データベース・オブジェクトのインストールまたはアップグレードの選択

データベース・オブジェクトは、Oracle Forms アプリケーションなどの Oracle Forms Server および Oracle Reports Server オブジェクトをデータベース内に保存する際に Oracle Forms Server および Oracle Reports Server によって使用される表、ビューおよび順序です。

データベース・オブジェクトは、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server オブジェクトを保存する各データベース内に必要です。データベース・オブジェクトをデータベースにインストールしてある場合は、再度インストールしないでください。

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server リリース 6i にアップグレードする際に、データベース・オブジェクトをリリース 8.0.6 にアップグレードする必要がある場合があります。

サーバー上のデータベースにインストールする製品のデータベース・オブジェクトがすでに存在しているかどうかを判断するには、次のように入力します。

```
$ sqlplus system/manager
SQL> SELECT table_name
2 FROM dba_tables
3 WHERE table_name LIKE 'table_name';
```

これらのデータベース表がすでに存在する場合、データベース内の SYSTEM アカウント内にあります。これらのデータベース表が存在しない場合は、Installer で作成する必要があります。表 2-1 は、表を示しています。

表 2-1 データベース表

製品	表
Oracle Browser	BROWSER%
Oracle Forms	FRM50%
Oracle Graphics	GO%
Oracle Reports	SRW2%

tnsnames.ora ファイルの設定

データベース・オブジェクトをインストールする場合、Installer を実行する前に tnsnames.ora ファイルを設定する必要があります。tnsnames.ora ファイルには、クライアント専用の構成にインストールされた Oracle Forms Server および Oracle Reports Server 製品から使用可能なリモート・データベースの詳細が含まれています。

tnsnames.ora ファイルは次のとおりです。

```
alias =
(DESCRIPTION =
  (ADDRESS =
    (PROTOCOL = tcp)
    (HOST = hostname)
    (PORT = service_number)
  )
  (CONNECT_DATA =
    (SID = ORACLE_SID)
  )
)
```

Oracle Net8 Assistant がある場合は、それを使用してファイルを更新できます。Oracle Net8 Assistant がない場合は、テキスト・エディタを使用して、表 2-2 の情報を基にファイルを更新します。

表 2-2 tnsnames.ora ファイルの値

変数	置き換える値
<i>alias</i>	記述されているサービスの別名。これはデータベースに接続するときに使用する名前です。
<i>hostname</i>	データベースが常駐するリモート・ホスト(サーバー)の名前。

表 2-2 tnsnames.ora ファイルの値

変数	置き換える値
<code>service_number</code>	Oracle Net8 リスナー・プロセスが、データベースが常駐するリモート・ホスト上のデータ・パケットをリスニングするポート番号。通常、 <code>/etc/services</code> ファイル内に定義されています。
<code>ORACLE_SID</code>	システム識別子 (sid) の値。接続先として (上で定義した) ホスト名のインスタンス名です。

Oracle 製品では、`tnsnames.ora` ファイルは次の順序で検索されます。

1. ユーザーのホーム・ディレクトリ内の `.tnsnames.ora` ファイル。(ファイル名の前のドットに注意してください。)
2. `$TNS_ADMIN/tnsnames.ora`
3. Solaris 用の `/var/opt/oracle/tnsnames.ora`
4. `$ORACLE_HOME/network/admin/tnsnames.ora`

`tnsnames.ora` ファイルをこれらの位置のいずれか 1 つに配置してください。いずれかのファイルが検索されない場合、Net8 を介してデータベースに接続できません。

デフォルトの位置 (`$ORACLE_HOME/network/admin` または `/var/opt/oracle`) 以外に `tnsnames.ora` ファイルを置くには、`tnsnames.ora` があるディレクトリに `TNS_ADMIN` 環境変数を設定します。たとえば、`tnsnames.ora` が `/tns` ディレクトリ内にある場合は、`TNS_ADMIN` を `/tns` に設定します。

環境変数の設定

オラクル社では、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server をインストールするユーザーの起動ファイル内に、環境変数を設定することをお勧めします。oracle アカウントにログインし、この項の手順に従って環境変数を設定してください。起動ファイルは、通常はユーザーの UNIX ログイン・ホーム・ディレクトリ内にあり、使用しているシェルに応じて異なります。一般に、Bourne シェルおよび Korn シェルでは `.profile` が使用され、C シェルでは `.cshrc` が使用されます。

環境変数の構文

Bourne シェルまたは Korn シェルの環境変数を設定する場合の構文は、次のとおりです。

```
$ set variable_name=value; export variable_name
```

C シェルの環境変数を設定する場合の構文は、次のとおりです。

```
% setenv variable_name value
```

DISPLAY 変数の設定

ソフトウェアをインストールするシステムに接続するワークステーションで使用するマシン名または IP アドレス、X サーバー、および画面を設定します。ソフトウェアをインストールするシステムのマシン名または IP アドレスを使用しないでください。ユーザー自身のワークステーションのマシン名または IP を使用してください。X サーバーや画面の設定がわからない場合、どちらも 0 (ゼロ) に設定してください。Installer を起動したときに、「Failed to connect to server」(サーバーへの接続に失敗しました) や「Connection refused by server」(サーバーによって接続が拒否されました) のような Xlib エラーが発生した場合、次のコマンドのいずれかを実行します。

Bourne シェルまたは Korn シェルの場合

```
$ DISPLAY=machine name:0.0
$ export DISPLAY
$ xhost +
```

C シェルの場合

```
% setenv DISPLAY machinename:0.0
% xhost +
```

注意: Oracle では、PC Xserver エミュレータをサポートしていません。PC 上のエミュレータに問題がある場合は、サーバーのコンソール上でその問題が再現するかどうかを確認してください。

詳細は、4-12 ページの「[DISPLAY 環境変数の設定](#)」を参照してください。

LD_LIBRARY_PATH 変数の設定

LD_LIBRARY_PATH は、共有ライブラリが配置されているディレクトリを含むように設定する必要があります。この変数は、\$ORACLE_HOME/lib を含んでいる必要があります。4-9 ページの「[LD_LIBRARY_PATH 変数の設定](#)」を参照してください。

ORACLE_AUTOREG 変数の設定

ORACLE_AUTOREG は、Toolkit オートメーション・レジストリ・ファイルである、`autoprefs.oar` の場所を示します。

Bourne または Korn シェルの場合、次のように入力します。

```
$ set ORACLE_AUTOREG=$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin; export ORACLE_AUTOREG
```

C シェルの場合、次のように入力します。

```
% setenv ORACLE_AUTOREG $ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin
```

ORACLE_BASE 変数の設定

ORACLE_BASE は、OFA 準拠のインストールを行う際に必要です。この変数は、Oracle 製品のインストール時にディレクトリ構造の基礎を定義します。*oracle* オペレーティング・システム・ユーザーは、このディレクトリに対する読取り権限、書込み権限および実行権限を持っている必要があります。

ORACLE_BASE が未定義の場合、Oracle Installer はマウント・ポイントとして指定した *mount_point/app/oracle* の値から ORACLE_BASE 値を読み込みます。Installer セッションを開始する前に ORACLE_BASE 値を設定する場合、Installer は環境からその値を取得します。

ORACLE_HOME 変数の設定

ORACLE_HOME は、Oracle ソフトウェアをインストールするディレクトリに設定する必要があります。クライアントのみにインストールする場合、Oracle Database Server ソフトウェアとは別のディレクトリを指定してください。

ORACLE_TERM 変数の設定

Installer は、Motif またはキャラクタ・モードで実行できます。キャラクタ・モードで Installer を実行する場合、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server をインストールする前に、ORACLE_TERM 環境変数に正しい端末タイプを設定します。

Borne シェル、Korn シェルおよび C シェルを vt220 端末タイプで使用する例を次に示します。

Bourne または Korn シェルの場合、次のように入力します。

```
$ set ORACLE_TERM=vt220; export ORACLE_TERM
```

C シェルの場合、次のように入力します。

```
% setenv ORACLE_TERM vt220
```

ORACLE_TERM が設定されていない場合、Installer は環境変数 TERM の値を使用し、対応する ORACLE_TERM リソース・ファイルを検索します。

表 2-3 に、一般的な ORACLE_TERM 設定を示します。

表 2-3 Oracle Installer がサポートしている端末

実行する端末	ORACLE_TERM の設定
SCO 用の ANSI 端末	ansi
AT386 コンソール	386
AT386 xterm	386x

表 2-3 Oracle Installer がサポートしている端末

実行する端末	ORACLE_TERM の設定
UnixWare 端末	386u
Solaris Intel xterm	386s
Data General 200	dgd2
Data General 400	dgd4
IBM 高機能端末および aixterm (モノクロ)	hft
IBM 高機能端末および aixterm (カラー)	hftc
hpterm 端末エミュレータおよび HP 700/9x 端末	hpterm
IBM 3151 端末	3151 (IBM 用)
vt220 スタイルのキーボード付き NCD X 端末	ncd220
Sun cmdtool/shelltool (タイプ 4 キーボードを使用する場合)	sun
Sun cmdtool/shelltool (タイプ 5 キーボードを使用する場合)	sun5
vt100 端末	vt100
vt220 端末	vt220
Wyse 50 または Wyse 60 端末	wy50
Wyse 150 端末	wy150
Sun xterm (タイプ 4 キーボードを使用する場合)	xsun
Sun xterm (タイプ 5 キーボードを使用する場合)	xsun5

TWO_TASK 変数の設定

データベース・オブジェクトをインストールする場合は、TWO_TASK 環境変数をデータベース・オブジェクトを作成するデータベースの正しい別名に設定してください。

ORA_NLS33 変数の削除

以前のリリースで使用されていた ORA_NLS33 環境変数が設定されていると、Installer が正常に機能しません。次のように入力して、変数が設定されていることを確認してください。

```
$ echo $ORA_NLS33
```

変数に何らかの値が設定されている場合、その値を削除してください。

Bourne または Korn シェルの場合、次のように入力します。

```
$ unset ORA_NLS33
```

Cシェルの場合、次のように入力します。

```
% unsetenv ORA_NLS33
```

インストール作業

この章では、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server のインストールについて説明します。この章の手順を開始する前に、第2章「環境の設定」に記載されている作業を完了してください。

この章では、次のトピックについて説明します。

- 製品インストール CD-ROM のマウント
- Oracle Forms Server のインストール
- Oracle Forms Server の使用方法
- Oracle Reports Server の設定
- Oracle Reports Server の使用方法
- データベース・オブジェクトの作成またはアップグレード

製品インストール CD-ROM のマウント

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server をインストールするには、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server CD-ROM で提供されるバージョンの Installer を使用してください。

注意： 次の手順では、CD-ROM マウント・ポイントは `/cdrom` と表記されています。マウント・ポイントがこれと異なる場合、`/cdrom` の表記箇所をすべて正しいマウント・ポイント名に置き換えてください。

CD-ROM の自動マウント

Solaris Volume Management ソフトウェアを使用している場合、CD-ROM は `/cdrom/oracle` に自動的にマウントされるため、「CD-ROM の手動マウント」の項はスキップしてもかまいません。

CD-ROM の手動マウント

Solaris Volume Management ソフトウェアがない場合、次の手順で CD-ROM を手動でマウントします。

1. 次のように入力し、root としてログインします。

```
$ su root
passwd: password
#
```

2. 次のように入力して、CD-ROM をマウントするマウント・ポイント・ディレクトリを作成します。

```
# mkdir /cdrom
```

3. 次のように入力して、CD-ROM をマウント・ポイントにマウントします。

```
# mount -r -F hsfs device_name /cdrom
```

注意： CD-ROM をマウントまたはマウント解除するには、root 権限が必要です。CD-ROM をドライブから取り出す前に、umount コマンドを使用して CD-ROM をマウント解除してください。

4. 次のように入力して、root アカウントを終了します。

```
# exit
$
```

Oracle Forms Server のインストール

Oracle Installer では、Oracle 実行ファイル（プログラムまたはソフトウェア）をシステムのハードディスクにインストールします。Oracle 製品によっては、データベース自体に格納されているデータベース・オブジェクトが必要な場合もあります。たとえば、RDBMS 製品では、データベース・オブジェクトに、システム、表、ビューなど、データベースの作成に必要なものが含まれています。

この項ではインストールの実行方法を説明します。データベース・オブジェクトの作成またはアップグレードの方法は、3-17 ページの [データベース・オブジェクトの作成またはアップグレード](#) を参照してください。

Installer の起動

インストール用製品 CD-ROM をマウントすると、「Install Type」ダイアログ・ボックスが表示されます。

警告: root ユーザーとして Installer を実行しないでください。

インストールを開始するには、次のステップを実行します。

1. 「OK」をクリックします。

「preamble.txt」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2. 「OK」をクリックします。

「version 6i」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 「OK」をクリックします。

「Install Type」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 次のいずれかを選択します。

- Default Install

Installer のデフォルト値がインストールに適切な場合は、このオプションを選択します。「Default Install」の選択後に、デフォルト・オプションがインストールに不適切だとわかった場合、「Back」ボタンをクリックすると、このダイアログ・ボックスに戻れます。

このオプションを選択する場合、「OK」をクリックし、「[インストール・アクティビティとオプションの選択](#)」に進みます。

- Custom Install

このオプションを選択する場合、「OK」をクリックし、「[インストールのカスタマイズ](#)」に進みます。

インストールのカスタマイズ

インストールをカスタマイズするには、次のステップを実行します。

1. インストール・ソースの定義

CD-ROM とステージング領域のどちらからインストールするかを指定します。カスタム・インストールの場合は、ステージング領域からのインストールのみ選択できます。

CD-ROM から直接インストールする場合は、配布される Oracle 製品を 1 つのセッションでロードし、インストールします。インストールを 1 回のみ実行する場合、またはステージング領域をサポートするのに十分なディスク領域がない場合は、このオプションを選択します。

ステージング領域からインストールする場合は、配布された製品のロードとインストールをそれぞれ別のフェーズで行うことができます。一時ステージング領域と常設ステージング領域のどちらかを選択する必要があります。

一時ステージング領域を選択した場合、ステージング領域でソフトウェアをロードすると、インストール・セッション中に Installer が内容をインストールされた配布内容に変換します。

常設ステージング領域は、インストール中に削除も変換もされません。したがって、複数のインストールを実行する場合に使用できます。

常設ステージング領域からインストールする場合、一時ステージング領域または配布媒体からインストールする場合の約 2 倍のディスク領域が必要です。領域要件は、[第 1 章「機能と要件」](#)を参照してください。

注意： 既存のステージング領域にファイルを追加しないでください。ステージング領域を再作成する必要がある場合は、Installer を使用して新しい領域を作成する前に、既存のファイルをすべて削除する必要があります。ステージング領域からソフトウェア・パッチをインストールする場合は、パッチ・リリース専用のステージング領域を作成する必要があります。

2. 実行ファイルの再リンク

再リンクでは、コンポーネント部分からプログラムを再生成します。再リンクが必要な製品は、Installer によって自動的に再リンクされます。

次の場合、再リンクを指定します。

- 新しい Oracle プロトコル・アダプタをインストールする場合
- Oracle 製品を一緒にリンクする場合
- ユーザー・イグジットをインストールする場合
- パッチまたはバグ修正をインストールする場合

3. ルート・インストール・スクリプト・ファイルの使用

以前の `root.sh` ファイルが存在する場合、`root` 関連アクティビティをそのファイルに追加するか、またはその旧ファイルを `root.sh0` として保存し、`root.sh` を上書きするかを確認するプロンプトが表示されます。

現在のインストール構成で以前の `root.sh` アクティビティを実行する場合以外は、新しいファイルを追加せずに古いファイルを改名します。

4. 各国語サポート (NLS) の使用。

米国英語以外の言語を使用するには、`All Languages` を選択するか、表示されるリストから言語を 1 つ選択します。(Installer プロンプトおよびメッセージは常に米国英語で表示されます。)

5. 「OK」をクリックします。

インストール・アクティビティとオプションの選択

「Default Install」オプションを選択した後、または「Custom Install」オプションを選択して「インストールのカスタマイズ」の項を完了すると、Installer によってこのリリースに含まれる `preamble.txt` ファイルと `README` ファイルが表示されます。

インストール・アクティビティとオプションを選択するには、次のステップを実行します。

1. これらのファイルに記載された製品の追加情報を読んでから、「OK」をクリックします。

「Installation Activity Choice」ダイアログ・ボックスが表示されます。

2. 次のいずれかを選択します。

- Install, Upgrade, or De-Install Software

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server ソフトウェアのインストールまたはアップグレードを行う場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、このセッション中にデータベース・オブジェクトの作成またはアップグレードを行うかどうかを選択できます。

- Create/Upgrade Database Objects

このオプションでは、新しい製品をインストールせずに、既存のデータベース内にデータベース・オブジェクトを作成します。

- Perform Administrative Tasks

このオプションは、既存の Oracle Forms Server および Oracle Reports Server インストール内の製品実行ファイルを再リンクします。

3. 「OK」をクリックします。

「インストール・オプション」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 次のいずれかを選択します。

- Install New Product - Create DB Objects

製品を新規にインストールするには、このオプションを選択します。このオプションにより、新しく `$ORACLE_HOME` が作成されます。

- Install New Product - Do Not Create DB Objects

すでに Oracle データベースを持っている場合や、データベース・オブジェクトを後で作成する予定がある場合、このオプションを選択します。

- Add/Upgrade Software

既存の `$ORACLE_HOME` にソフトウェアをインストールする場合、または既存ソフトウェアをアップグレードする場合は、このオプションを選択します。

- Build Oracle8 Staging Area

ステージング領域を作成するには、このオプションを選択します。たとえば、製品のインストールを複数実行する場合などです。

ステージング領域を使用すると、実行中のインストールとは関係なく、指定したディレクトリにソフトウェアをロードできます。後でインストールを完了することができます。

- Install Documentation Only

オンライン・ドキュメントをインストールする場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、ソフトウェアのインストールはできません。

- De-Install Software

古い製品を削除してから、既存の `$ORACLE_HOME` を使用して製品をアップグレードする場合は、このオプションを選択します。

- Migrate from ORACLE7 to ORACLE8

Oracle7 から Oracle8 に移行するには、このオプションを選択します。

5. 「OK」をクリックします。

デフォルト設定の確認

「インストール・アクティビティとオプションの選択」の項を完了すると、「Environment Variables」ダイアログ・ボックスが表示されます。

環境変数は、第 2 章「環境の設定」を参考に設定します。環境変数の値を確認するには、次のステップを実行します。

1. 次の環境変数のパス名を確認します。

- ORACLE_BASE

表示された値が不適切な場合、Oracle 製品のディレクトリ構造に合った値を `ORACLE_BASE` に入力します。このディレクトリには、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server ソフトウェア、およびこれに関連する管理ファイルが入ります。Installer を起動する前に `ORACLE_BASE` を設定した場合、このフィールドはユーザーが選択した値がデフォルトになります。

- ORACLE_HOME

Installer により、`ORACLE_HOME` ディレクトリのパス名の入力を要求するプロンプトが表示されます。インストールの前に `ORACLE_HOME` を設定した場合は、その値が使用されます。そうでない場合、表示される値は Installer が計算した OFA 準拠値です。OFA 準拠パスは、`$ORACLE_BASE/product/release_number` です。配布のリリース番号 (6.0 など) を入力してください。

- ORACLE_SID

表示された値が不適切な場合、サーバー識別値を入力します。

注意: Installer が使用する環境変数のリストは、2-4 ページの「[環境変数の設定](#)」を参照してください。

2. 「OK」をクリックします。

Installer は、インストール・ログ情報を \$ORACLE_HOME/orainst ディレクトリ内の次の内容固有ファイルに書き込みます。

- install.log
- sql.log
- make.log
- os.log

デフォルト位置にログ・ファイルがすでに存在する場合は、Installer によって既存のファイルが改名されます。複数のインストールのログ・ファイルを 1 つのファイルに格納すると、その後のデバッグの妨げとなります。「Back」ボタンをクリックすると、Defaults ファイルに表示されている値を変更できます。

Software Asset Manager の設定

「[デフォルト設定の確認](#)」の項を完了すると、「Software Asset Manager」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Software Asset Manager を設定するには、次のステップを実行します。

1. インストールする全製品で、次を実行します。
 - a. 該当する製品のところまで「Products available」ボックスをスクロールします。
 - b. [Space] キーを押して製品を選択します。
 - c. 「Install」ボタンをクリックすると、「Products installed」ボックスに製品が移動します。

注意: 「インストール・オプション」ダイアログ・ボックスで「Install Documentation Only」オプションを選択した場合、インストールするドキュメントに対応する製品を選択します。この場合、ドキュメントのみがインストールされ、製品はインストールされません。

Software Asset Manager は、選択された配布のサイズとインストール先ディレクトリ (ORACLE_HOME) 内の利用可能な領域を追跡します。

2. 「Options」ボタンをクリックすると、ダイアログ・ウィンドウが表示され、そこで、インストール中にダイアログを表示するか、Installer のアクションをログに記録するかを選択できます。

注意：「Options」ボタンの「Log Installer Action」では大量のデータが生成されるため、オラクル社カスタマ・サポート・センターの担当者から指示がない限り、このオプションは選択しないでください。

3. [Return] キーを押します。

コンポーネントの選択

「Software Asset Manager の設定」の項を完了すると、「Component Selection」ダイアログ・ボックスが表示されます。

次のコンポーネント・リストから、最初のコンポーネントを [Tab] キーで選択します。他のコンポーネントを選択解除するには、[Space] キーを使用します。

- Forms Server for Web deployment または Reports Multitier Server for Web deployment
このオプションを選択します。このオプションは Oracle Forms Server および Oracle Reports Server に適用されます。
- Motif Bitmapped Interface
このオプションは選択解除してください。このオプションは Oracle Forms Developer および Reports Developer に適用されます。
- Designer and Generator Executables または Reports Designer and Generator Executables
このオプションは選択解除してください。このオプションは Oracle Forms Developer および Reports Developer に適用されます。
- Character Mode Interface
このオプションは選択解除してください。このオプションは Oracle Forms Developer および Oracle Reports Developer に適用されます。

マシン構成の選択

「コンポーネントの選択」の項を終了すると、「Forms Server Installation」ダイアログ・ボックスが表示されます。

次のいずれかを選択します。

- single machine configuration

このオプションは、Oracle Forms Server を 1 台のマシンのみにインストールする場合に選択します。

このオプションを選択する場合、「OK」をクリックし、「[単一マシン構成の設定](#)」に進みます。

- part of a multiple machine configuration

このオプションは、Oracle Forms Server を 2 台以上のマシンにインストールする場合に選択します。このオプションには、拡張性が追加されています。

このオプションを選択する場合、「OK」をクリックし、「[複数マシン構成の設定](#)」に進みます。

単一マシン構成の設定

「[マシン構成の選択](#)」の項の「single machine configuration」を選択すると、「Forms Server: Web listener」ダイアログ・ボックスが表示されます。

単一マシン構成の設定を行うには、次のステップを実行します。

1. 次のいずれかを選択します。

- use Oracle WebDB listener

Oracle WebDB Listener をインストールし、構成する場合、このオプションを選択します。Oracle WebDB は、Oracle Forms Server とともに提供される軽量のリスナーで、コモン・ゲートウェイ・インタフェース (CGI) をサポートします。

- use another Web listener

CGI をサポートするほかの Web listener を使用する場合、または Oracle Application Server を使用する場合はこのオプションを選択します。このオプションを選択した場合、インストールの完了後に、リスナーの仮想パスの構成方法の説明が表示されます。

2. 「OK」をクリックします。

「WebDB Listener」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 次の値を入力します。

- Oracle Forms Server によって使用されるホスト名
- Oracle Forms Server によって使用される Listener のポート

4. 「OK」をクリックします。

「Process Startup」ダイアログ・ボックスが表示されます。

5. 次のいずれかをクリックします。

- Yes

「Yes」をクリックすると、自動的に Oracle Forms Server のインストールが実行されます。

- No

「No」をクリックすると、Oracle Forms Server のインストールは開始されません。

「Forms Server parameters」ダイアログ・ボックスが表示されます。

6. Oracle Forms Server が Form の実行要求を監視する TCP/IP のポート番号を入力します。表示されたポート番号が別のプログラムによって使用されている場合は、変更しません。

7. 「OK」をクリックします。

「Forms Server parameters」ダイアログ・ボックスが表示されます。(このダイアログ・ボックスは、以前のダイアログ・ボックスと同じ名前です。)

8. 次のいずれかを選択します。

- ソケット

Oracle Forms Server ランタイム・エンジンと Oracle Forms Server Java アプレット (Web ブラウザで実行可能) の通信にソケット・プロトコルを使用する場合、このオプションを選択します。

- HTTP

ファイアウォールを超えて通信を行う必要がある場合、このオプションを選択します。たとえば、マシンがファイアウォールの内側にあり、ファイアウォールの外側のユーザーが Oracle Forms アプリケーションを利用する必要がある場合、HTTP を選択します。

- HTTPS

ファイアウォールを超えて通信を行う必要があり、Secure Sockets Layer 暗号化を行う場合、このオプションを選択します。

9. 「OK」をクリックします。

10. 「Oracle Forms Server の使用方法」の項に移ります。

複数マシン構成の設定

「マシン構成の選択」の項の「part of a multiple machine configuration」を選択すると、「Forms Server: Multiple Machine Confirmation」ダイアログ・ボックスが表示されます。

複数マシン構成の設定を行うには、次の中から選択します。

- Primary node

このオプションを選択する場合、「OK」をクリックし、「[プライマリ・ノードの設定](#)」に進みます。

- Secondary node

このオプションを選択する場合、「OK」をクリックし、「[セカンダリ・ノードの設定](#)」に進みます。

プライマリ・ノードの設定

「[複数マシン構成の設定](#)」の項の「Primary node」を選択すると、「Forms Server: Primary Node」ダイアログ・ボックスが表示されます。

次のステップを実行してプライマリ・ノードを設定します。

1. 次のいずれかを選択します。

- セカンダリ・ノードおよびこのプライマリ・ノード
- セカンダリ・ノード上のみ

2. 「OK」をクリックします。

「Forms Server: Web listener」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 次のいずれかを選択します。

- use Oracle WebDB listener

Oracle WebDB Listener をインストールし、構成する場合、このオプションを選択します。Oracle WebDB は、Oracle Forms Server とともに提供される軽量のリスナーで、コモン・ゲートウェイ・インタフェース (CGI) をサポートします。

- use another Web listener

CGI をサポートするほかの Web listener を使用する場合、または Oracle Application Server を使用する場合はこのオプションを選択します。このオプションを選択した場合、インストールの完了後に、リスナーの仮想パスの構成方法の説明が表示されます。

4. 「OK」をクリックします。

「WebDB Listener」ダイアログ・ボックスが表示されます。

5. 次の値を入力します。

- Oracle Forms Server によって使用されるホスト名
- Oracle Forms Server によって使用される Listener のポート

6. 「OK」をクリックします。

「Process Startup」ダイアログ・ボックスが表示されます。

7. 次のいずれかをクリックします。
 - Yes
「Yes」をクリックすると、自動的に Oracle Forms Server のインストールが実行されます。
 - No
「No」をクリックすると、Oracle Forms Server のインストールは開始されません。
「Load Balancer Server parameters」ダイアログ・ボックスが表示されます。
8. 次の値を入力します。
 - データ・ポート
これは、Load Balancing Client がロード・データを送る TCP/IP ポートの値です。
 - リクエスト・ポート
これは、Oracle Forms Server CGI および Oracle Forms Server Cartridge がロード・データを要求する TCP/IP の値です。
9. 「OK」をクリックします。
「Forms Server parameters:Secondary nodes」ダイアログ・ボックスが表示されます。
10. Oracle Forms Server が Form の実行要求を監視する TCP/IP のポート番号を入力します。表示されたポート番号が別のプログラムによって使用されている場合は、変更します。
11. 「OK」をクリックします。
12. 「[Oracle Forms Server の使用方法](#)」の項に移ります。

セカンダリ・ノードの設定

「[複数マシン構成の設定](#)」の項の「Secondary node」を選択すると、「Forms Server Parameters: Secondary Node」ダイアログ・ボックスが表示されます。

次のステップを実行してセカンダリ・ノードを設定します。

1. 次のいずれかを選択します。
 - ソケット
Oracle Forms Server ランタイム・エンジンと Oracle Forms Server Java アプレット (Web ブラウザで実行可能) の通信にソケット・プロトコルを使用する場合、このオプションを選択します。
 - HTTP

ファイアウォールを超えて通信を行う必要がある場合、このオプションを選択します。たとえば、マシンがファイアウォールの内側にあり、ファイアウォールの外側のユーザーが Oracle Forms アプリケーションを利用する必要がある場合、HTTP を選択します。

- HTTPS

ファイアウォールを超えて通信を行う必要があり、Secure Sockets Layer 暗号化を行う場合、このオプションを選択します。

2. 「OK」をクリックします。

「Process Startup」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 次のいずれかをクリックします。

- Yes

「Yes」をクリックすると、自動的に Oracle Forms Server のインストールが実行されます。

- No

「No」をクリックすると、Oracle Forms Server のインストールは開始されません。

「Load Balancer Client parameters」ダイアログ・ボックスが表示されます。

4. 次の値を入力します。

- データ・ホスト

この値は、Load Balancing Server が実行されているホストの名前です。

- データ・ポート

この値は、Load Balancing Server が Load Balancing Client 用にロード・データを受け取る、データ・ホスト上の TCP/IP のポートです。

5. 「OK」をクリックします。

「Forms Server parameters」ダイアログ・ボックスが表示されます。

6. Oracle Forms Server が Form の実行要求を監視する TCP/IP のポート番号を入力します。表示されたポート番号が別のプログラムによって使用されている場合は、変更します。

7. 「OK」をクリックします。

「Forms Server parameters」ダイアログ・ボックスが表示されます。(このダイアログ・ボックスは、以前のダイアログ・ボックスと同じ名前です。)

8. 次のいずれかを選択します。

- ソケット

Oracle Forms Server ランタイム・エンジンと Oracle Forms Server Java アプレット (Web ブラウザで実行可能) の通信にソケット・プロトコルを使用する場合、このオプションを選択します。

- HTTP

ファイアウォールを超えて通信を行う必要がある場合、このオプションを選択します。たとえば、マシンがファイアウォールの内側にあり、ファイアウォールの外側のユーザーが Oracle Forms アプリケーションを利用する必要がある場合、HTTP を選択します。

- HTTPS

ファイアウォールを超えて通信を行う必要があり、Secure Sockets Layer 暗号化を行う場合、このオプションを選択します。

9. 「OK」をクリックします。

10. 「[Oracle Forms Server の使用方法](#)」の項に移ります。

Oracle Forms Server の使用方法

Oracle Forms Server の起動と停止、および Web からの Oracle Forms Server のテストにスクリプトを使用できます。

Oracle Forms Server の起動と停止

Oracle Forms Server は、`$ORACLE_HOME/forms60_server` ファイルにサーバーの起動と停止を行うシェル・スクリプトを作成します。

サーバーを起動するには、次のように入力します。

```
forms60_server start parameters
```

この場合、

```
parameters
```

 Oracle Forms Server のパラメータをファイルに渡します

たとえば、次のスクリプトは、Oracle Forms Server のすべての動作を `server.log` ファイルに記録します。

```
forms60_server start log=server.log
```

サーバーを停止するには、次のように入力します。

```
forms60_server stop
```

Oracle Forms Server の Web からのテスト

Oracle Forms Server をテストするには、次の URL を参照します。

```
http://host_name:port/dev60html/runform.htm
```

この場合、

host_name システムのホスト名です

port HTTP リスナーを実行しているポート番号です

Oracle Reports Server の設定

「コンポーネントの選択」の項を終了すると、「Default display for Reports Server」ダイアログ・ボックスが表示されます。

Oracle Reports Server を設定するには、次のステップを実行します。

1. XWindow ディスプレイの値を次のように入力します。

```
machine_name:server_number:screen_number
```

この場合、

machine_name サーバーのホスト名です

server_number 使用している X11 サーバーの数で、通常の値はゼロです

screen_number 使用している X11 スクリーンの数で、通常の値はゼロです

Oracle Reports Server は、DISPLAY 環境変数の設定に X11 ウィンドウ・システムの XWindow ディスプレイの値を使用します。詳細は、製品マニュアルおよびお使いのオペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

2. 「OK」をクリックします。

「Reports Server parameters」ダイアログ・ボックスが表示されます。

3. 次の値を入力します。

- 実行しているマシンの Oracle Reports Server によって使用される TNS 名

この TNS 名は、Oracle Net8 の TNS 名として定義されている必要があります。この名前は、インストール処理によって Net8 `tnsnames.ora` ファイルに定義されます。

- Oracle Reports Server によって使用される TCP/IP ポート番号

表示されたポート番号が別のプログラムによって使用されている場合は、変更します。

4. 「OK」をクリックします。

「Reports Server:Web listener」ダイアログ・ボックスが表示されます。

5. 次のいずれかを選択します。

- use Oracle WebDB listener

Oracle WebDB リスナーをインストールし、構成する場合、このオプションを選択します。Oracle WebDB は、Oracle Reports Server とともに提供される軽量のリスナーで、コモン・ゲートウェイ・インタフェース (CGI) をサポートします。

- use another Web listener

CGI をサポートするほかの Web listener を使用する場合、または Oracle Application Server を使用する場合はこのオプションを選択します。このオプションを選択した場合、インストールの完了後に、リスナーの仮想パスの構成方法の説明が表示されます。

6. 「OK」をクリックします。

「Process Startup」ダイアログ・ボックスが表示されます。

7. 次のいずれかをクリックします。

- Yes

「Yes」をクリックすると、自動的に Oracle Reports Server のインストールが実行されます。

- No

「No」をクリックすると、Oracle Reports Server のインストールは開始されません。

「Oracle」ダイアログ・ボックスが表示されます。(通常、この処理は少なくとも 20 分かかります。)
「Reports Security」ダイアログ・ボックスが表示されます。

8. 次のいずれかをクリックします。

- Yes

「Yes」をクリックすると、WebDB の Reports Security 機能がインストールされます。

- No

「No」をクリックすると、WebDB の Reports Security 機能はインストールされません。

「Configuration instructions for Developer Server」ダイアログ・ボックスが表示されます。

9. 「Yes」をクリックします。

ダイアログ・ボックスが表示されます。ダイアログ・ボックスのヘッダーには、サーバーのインストール場所が表示されます。

Oracle Reports Server の使用方法

Oracle Reports Server の起動と停止、および Web からの Oracle Reports Server のテストにスクリプトを使用できます。

Oracle Reports Server の起動と停止

Oracle Reports Server は、`$ORACLE_HOME/Reports60_server` ファイルにサーバーの起動と停止を行うシェル・スクリプトを作成します。

サーバーを起動するには、次のように入力します。

```
reports60_server start
```

サーバーを停止するには、次のように入力します。

```
reports60_server stop
```

Oracle Reports Server の Web からのテスト

Oracle Reports Server をテストするには、次の URL を参照します。

```
http://host_name:port/dev60html/runrep.htm
```

この場合、

`host_name`

システムのホスト名です

`port`

HTTP リスナーを実行しているポート番号です

データベース・オブジェクトの作成またはアップグレード

データベース・オブジェクトを作成またはアップグレードするには、次のステップを実行します。

1. 環境が正しく設定されていることを確認します。第 2 章「環境の設定」を参照してください。
2. Installer を再起動します。「Installation Activity Choice」ダイアログ・ボックスから「Create/Upgrade Database Objects」オプションを選択して、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server 用の新しいデータベース・オブジェクトを作成するか、あるいはデータベース・オブジェクトを旧リリースからリリース 8i にアップグレードします。

インストールの完了

この章では、インストール後の作業とインストールを完了するために実行する構成タスクを説明します。

この章では、次のトピックについて説明します。

- [インストールの検証](#)
- [プリンタ構成ファイルの設定](#)
- [環境の設定](#)
- [GUI の設定](#)
- [Windows クライアントの設定](#)
- [その他の言語の使用可能化](#)

インストールの検証

起動時に問題が発生した場合、`DEBUG_SLFIND` を使用して、選択したファイルにエラー・メッセージを出力します。これを行うには、`DEBUG_SLFIND` に `stdout`、`stderr`、または他のファイル名を設定します。

Tool に戻ります。リソース・ファイルの欠落を示すエラー・メッセージがファイル内にあるかどうかを、チェックします。

`/dev/audio` および `/dev/audioc1` に対するアクセス権が、読み取り書き込みアクセス可能に設定されていることを確認します。アクセス権をチェックするには、次のように入力します。

```
$ ls -l /dev/audio*
```

プリンタ構成ファイルの設定

Oracle Installer の実行後、プリンタ構成ファイルを設定し、使用しているシステムで印刷ができるようにするには、次の作業を実行します。

- 使用するプリンタ用の PPD および AFM ファイルの検索とインストール
- デフォルト・プリンタの設定
- Toolkit フォント・マップ・ファイルの更新
- プリンタ・コマンドの設定 (オプション)
- デフォルト・プリンタの指定
- HP PCL プリンタへの印刷
- 印刷機能のテストとエラーの修正

使用するプリンタ用の PPD および AFM ファイルの検索とインストール

この作業では、使用するプリンタに対応する PostScript Printer Definition (PPD) ファイルを選択する手順を示します。Solaris では PostScript プリンタで利用可能なフォントの情報を、プリンタから直接取得できないため、Oracle Toolkit で PPD ファイルを使用して、利用可能なフォントを判断します。

各 PPD ファイルは、プリンタの用紙サイズ、利用可能フォント、およびデフォルト解像度を指定します。このファイルに PostScript フォントのリストがある場合、対応する Adobe Font Metrics (AFM) ファイルが

`$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin/AFM` ディレクトリに存在している必要があります。これは、Toolkit がフォント・メトリックの計算をする際にこのファイルを使用するからです。

AFM ファイルは、Type1 フォント・プログラム用のフォント・メトリック情報を指定します。各 AFM ファイルでは、1つのフォントに関して、スタイル、太さ、幅、キャラクタ・セットなどのフォント属性、フォントが固定ピッチかプロポーショナルか、および各文字のサイズなどの情報を表示します。

Oracle では、一般的なプリンタおよびフォント用の PPD ファイルと AFM ファイルをいくつか提供しています。使用するプリンタに対応するファイルが見つからない場合、PPD および AFM ファイルをプリンタのベンダーまたは Adobe systems から入手できます。また、デフォルトのプリンタ定義ファイルである `default.ppd` も使用可能です。

1. 使用するプリンタ用の PPD ファイルを検索するには、次のように入力します。

```
$ cd $ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin/PPD
$ ls *.ppd | more
```

Oracle による配布に含まれている PPD ファイルがすべて一覧できます。

2. PPD ファイル内のリストにあるフォントを確認するには、次のように入力します。

```
$ grep Font PPD_filename | more
```

- 必要なフォントがすべて \$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin/AFM ディレクトリにあるかどうかをチェックするには、次のように入力します。

```
$ cd $ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin/AFM
$ ls | more
```

使用するプリンタに必要なフォントを確認するには、プリンタのマニュアルを参照してください。

デフォルト PPD ファイルの変更

ローカル・デフォルト・プリンタをより適切に記述するために、別の PPD ファイルをコピーして作成した default.ppd を PPD ファイルとして指定することもできます。

例えば、次のように入力します。

```
$ mv default.ppd default.ppd.old
$ cp another_PPD_file default.ppd
```

現在のプリンタに対し無効な PPD ファイルを指定した場合、たとえば無効なファイルを指定した場合や、どのファイルも指定しない場合は、default.ppd ファイルが使用されません。

PPD ファイルの変更

プリンタにフォントを追加し、この変更を Oracle アプリケーションに反映させる必要がある場合以外は、PPD ファイルを変更しないでください。プリンタにフォントを追加する場合、そのフォントに関するエントリもプリンタの PPD ファイルに追加します。

フォント・エントリの形式は次のとおりです。

```
*Font font_name: encoding "version" charset
```

この場合、

font_name	PostScript で指定されている Adobe フォント名を指定します。
encoding	PostScript コード名を指定します。
version	フォントのバージョン番号を指定します。
charset	Adobe キャラクタ・セット名を指定します。

デフォルト・プリンタの設定

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server 製品用のデフォルト・プリンタを設定するには、\$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin/uiprint.txt ファイルを更新し、

使用するプリンタごとにエントリを追加します。このファイルを使用すると、正しい用紙サイズおよび正しいプリンタ解像度を取得できるほか、Toolkit アプリケーションのユーザーは、選択したプリンタで利用可能な各種の用紙サイズを使用して、プリント・ジョブを設定できます。

Oracle Toolkit が使用する `uiprint.txt` ファイルは、`$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin` ディレクトリにあり、このファイルはシステム上で利用可能なプリンタのリストを示します。各プリンタは、`uiprint.txt` ファイル内のコロンで区切られた 5 つのフィールドから成る 1 行によって定義されます。

使用する各プリンタごとに、次の行を `uiprint.txt` ファイルに入力します。

```
printer:printer_driver:Toolkit_driver:printer_descr:printer_descr_file:
```

この場合、

<code>printer</code>	<code>lpr</code> または <code>lp</code> コマンドで使用するプリンタの名前を入力します。このパラメータは、 <code>ORACLE_PRINTER</code> 環境変数と <code>PRINTER</code> 環境変数がいずれもシステム上に設定されていない場合のデフォルト・プリンタも指定します。
<code>printer_driver</code>	プリンタに対して使用するプリンタ・ドライバのタイプを指定します。Toolkit では、プリンタ・ドライバとして PostScript、ASCII、および PCL をサポートしています。
<code>Toolkit_driver</code>	Toolkit で使用するプリンタ・ドライバのバージョンを指定します。Toolkit では 1 (ASCII または Level 1 PostScript)、2 (Level 2 PostScript プリンタ)、および 5 (HP PCL プリンタ) をサポートしています。
<code>printer_descr</code>	プリンタに関する説明を自由形式で入力できます。たとえば、プリンタの場所や速度などを示すことができます。
<code>printer_descr_file</code>	プリンタで使用されるプリンタ定義ファイルを指定します。このファイルの形式は、プリンタに対して指定されたドライバによって異なります。Toolkit では Adobe PPD ファイル形式と HP HPD ファイル形式をサポートしています。詳細な手順は、4-2 ページの「 使用するプリンタ用の PPD および AFM ファイルの検索とインストール 」を参照してください。

注意： コメントではない最初の行（第 1 列に数字がない行）では、有効なプリンタを定義する必要があります。`uiprint.txt` ファイルが適切に構成されていないと、「Printing services」オプションや「Saving output to file」オプションは正常に動作しません。

Toolkit フォント・マップ・ファイルの更新

`uifont.ali` ファイルには、ある Toolkit フォントから別の Toolkit フォントにマップする別名が含まれており、使用できないフォントを代りのフォントにマップするために使用され

ます。たとえば、Arial フォントは Microsoft Windows 固有のもので、Solaris では Helvetica にマップされます。

uifont.ali ファイルは、\$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin ディレクトリ内にあります。別のディレクトリを使用する場合は、次の項を参照してください。

関連項目： uifont.ali ファイル内のコメント。このファイルは、新規リリースごとに更新されます。

TK60_FONTALIAS の設定

Oracle Toolkit では、uifont.ali を TK60_FONTALIAS 変数で指定された場所から検索します。TK60_FONTALIAS が設定されていない場合、または uifont.ali が指定された場所がない場合、Toolkit は \$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin ディレクトリ内で uifont.ali を検索します。

uifont.ali ファイルの変更

uifont.ali ファイルを変更する場合、各行の通常の構造が次のように設定されていることを確認してください。

```
new font=existing font
```

この場合、

new_font 追加するフォントです。

existing_font 使用するプリンタにすでに存在するフォントです。

uifont.ali ファイルの各行の形式は、次のとおりです。

```
face.size.style.weight.width.charset = face.size.style.weight.width.charset
```

ここで、値はピリオド (.) で区切られます。

face Toolkit が印刷に使用するフォントの名前を指定します。一般的なフォントには、Palatino、Helvetica、Courier、Times などがあります。

size フォントのサイズをポイント単位で指定します。

style plain、italic、oblique、underline、outline、shadow、inverted、overstrike の中からスタイル・オプションを指定します。複数のスタイルを指定する場合は、(plain italic) のように、リストを () で囲む必要があります。

<i>weight</i>	ultralight、extralight、light、demilight、medium、demibold、bold、extrabold、ultrabold の中から線の太さオプションを指定します。
<i>width</i>	ultradense、extradense、dense、semidense、normal、semiexpand、expand、extraexpand、ultraexpand の中から幅オプションを指定します。
<i>charset</i>	キャラクタ・セット名を指定します。現在のリリースでは、このオプションはサポートされていません。

次の規則が適用されます。

- イタリックと重ね打ちのスタイルを持つ Arial は、12 ポイント・フォントにマップされます。各フォント行は、円記号 (¥) を使用することによって次の行に続けることができます。
- 各要素の間はピリオド (.) で区切ります。
- 複数のスタイルを結合するには、スタイルの部分のデリミタとしてプラス記号 (+) を使用します。たとえば、

```
Helvetica.12.Italic+Overstrike = Helvetica.12.Italic.Bold
```

では、イタリックと重ね打ちのスタイルを持つ Helvetica12 ポイント・フォントはすべて、12 ポイントの太字イタリック Helvetica フォントにマップされます。

- 空白を含む要素名は引用符で囲みます。たとえば、

```
"Avant Garde".12.Italic+Overstrike = Helvetica.12.Italic.Bold
```

この例では、イタリックと重ね打ちのスタイルを持つ Avant Garde フォントはすべて、12 ポイントの太字イタリック Helvetica フォントにマップされます。

- 要素を定義しない場合、ブレース・ホルダとしてピリオドを使用します。後続するピリオドは切り捨てられます。たとえば、次の例では、左辺ではサイズが指定されていませんが、両辺とも指定内容は同じです。

```
Arial..Italic+Overstrike = Helvetica.12.Italic.Bold
```

プリンタ・コマンドの設定 (オプション)

プリンタ・コマンドを格納する TK6_PRINT とプリンタ・ステータス コマンドを格納する TK6_PRINT_STATUS を設定できます。次のように *print_string* を指定する必要があります。

```
lp -s -d'%n' -n%c  
lpstat -p '%n'
```

これにより、次の文字列を埋め込むことができます。

```
%n          プリンタ名
%c          部数 (10 進数として出力されます)
```

TK6_PRINT を設定しない場合、値は次のようにデフォルト設定されます。

```
lp -s -d'%n' -n%c
```

TK6_PRINT_STATUS を設定しない場合、値は次のようにデフォルト設定されます。

```
/usr/bin/lpstat -p '%n'
```

Bourne シェルで TK6_PRINT と TK6_PRINT_STATUS を設定するには、次のように入力します。

```
$ set TK6_PRINT="print_string"; export TK6_PRINT
$ set TK6_PRINT_STATUS="print_string"; export TK6_PRINT_STATUS
```

C シェルで TK6_PRINT と TK6_PRINT_STATUS を設定するには、次のように入力します。

```
% setenv TK6_PRINT "print_string"
% setenv TK6_PRINT_STATUS "print_string"
```

デフォルト・プリンタの指定

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server では、次の変数を上から順に検索してデフォルト・プリンタを決定します。

1. TK6_PRINTER
2. ORACLE_PRINTER
3. PRINTER
4. uiprint.txt ファイル内の先頭エントリ

デフォルト・プリンタを指定するには、TK6_PRINTER に適切なプリンタを設定します。

注意： デフォルト・プリンタは、上記のいずれかの方法で指定する必要があります。別の方法で行うと、「Printing services」オプションおよび「Saving output to file」オプションが使用禁止となる可能性があります。

HP PCL プリンタへの印刷

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server では、PostScript、ASCII、HP PCL の各プリンタへの出力を完全にサポートしています。PostScript プリンタの PPD ファイルと同様に、HPD または HP グルー・ファイルは、HP PCL プリンタで使用可能なフォントに関する情報を規定します。HP グルー・ファイルの多くは、

`$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin/HPD`にあります。これらのファイルは、HP社の AutoFont Support Installer (PC 上で利用可能) によって自動的に生成されます。ファイル形式に関するドキュメントは、HP 社の『PCL5 Developer's Guide』を参照してください。

PostScript の AFM ファイルの場合と同様に、HP フォントにはそれぞれに対応付けられた TFM ファイルが必要です。TFM ファイルは、通常、フォント・ベンダーによって提供されます。新しいフォントをインストールする場合、そのフォントをプリンタのグルー・ファイルに追加する必要があります。TFM ファイルは、`$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin/TFM`にあります。

新しいフォントを追加する場合、次のようにしてグルー・ファイルでフィールドを指定します。

```
FONT={fontname}
/tfm={tfm-filename}
```

この場合、

<code>fontname</code>	フォントの記述名です
<code>tfm-filename</code>	TFM ファイルのベース・ファイル名です

また、TFM ファイルの記述内容が不十分な場合、グルー・ファイル内の `FONT=` フィールドの後に次のように入力し、フィールドを指定することもできます。

```
/ptsize={size {size ...}}
```

フォントがビットマップ・フォントであるのに TFM ファイルにスケーラブル・フォントとして記述されている場合、次のように入力し、許容されるすべてのサイズをリストにすると、使用するポイント・サイズを制限できます。

```
/symset={symset {symset ...}}
```

このフィールドは、サポートされる記号セットをフィールドのリストに記述されている記号のみに制限します。認識される記号セットのリストは、HP PCL ドキュメントを参照してください。

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server では、PCL 形式で印刷する場合の `defaultpaper` フィールドもサポートしています。このフィールドを使用すると、`defaultpaper` を Toolkit で使用するよう設定できます。このフィールドの形式は次のとおりです。

```
<defaultpaper={papername}
```

たとえば、`<defaultpaper=A4` ではデフォルトの用紙は A4 に設定されます。

`papername` では大文字と小文字は区別されません。ユーザーが複数の場所にこのフィールドを指定した場合、最後の `defaultpaper` フィールドの `papername` が `defaultpaper` と

して使用されます。defaultpaper を指定しても、その *papername* がプリンタでサポートされていない場合、defaultpaper 設定は無視され、defaultpaper は LETTER に設定されます。また、このフィールドに指定した *papername* が正しくない場合も、defaultpaper は LETTER に設定されます。

印刷機能のテストとエラーの修正

プリンタを選択し、テストするには、次の操作を実行します。

1. 印刷機能をテストします。

任意の Oracle Forms Server および Oracle Reports Server Tool を起動し、デフォルト・プリンタに出力します。

2. 「プリンタ選択」ダイアログでプリンタを選択します。

「プリンタ選択」ダイアログでは、使用しているシステムで使用可能なプリンタのリストがそのタイプおよび説明とともに表示されます。Oracle Toolkit では、このリストを \$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin/uiprint.txt ファイルから読み込みます。この使用可能なプリンタのリストから、プリンタを選択できます。

また、新しいプリンタとそのタイプを指定することもできます。新しいプリンタを選択するには、その名前を入力するか、または「プリンタ選択」ダイアログに表示される Oracle Toolkit でサポートされているさまざまなドライバから、対応するタイプを選択します。Toolkit により、指定された名前が有効なプリンタに対応しているかどうかチェックされます。プリンタが有効である場合、ファイル・ダイアログで PPD ファイルをプリンタと対応付けることができます。PPD ファイルを対応付けられない場合、Toolkit では default.ppd が使用されます。

環境の設定

この項では、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server の一般的なユーザー環境の設定方法を説明します。次の環境変数は、使用されるユーザー・インタフェース（キャラクタ・モード、Motif、または Web）に関係なく、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server の実行に必要です。

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server 環境の設定には、次の作業をする必要があります。

LD_LIBRARY_PATH 変数の設定

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server 製品を実行するには、LD_LIBRARY_PATH 環境変数を設定する必要があります。Oracle Forms Server および Oracle Reports Server 製品は、動的ライブラリ、つまり共有ライブラリを使用します。したがって、LD_LIBRARY_PATH を設定して、動的リンカーがライブラリを検出できるように

する必要があります。LD_LIBRARY_PATH が設定されているかどうかを判断するには、次のように入力します。

```
% echo $LD_LIBRARY_PATH
```

LD_LIBRARY_PATH 環境変数は、最初 \$ORACLE_HOME/lib に設定します。

LD_LIBRARY_PATH はリセット可能です。

Bourne シェル用にリセットするには、次を入力します。

```
$ set LD_LIBRARY_PATH=$ORACLE_HOME/lib:${LD_LIBRARY_PATH}
$ export LD_LIBRARY_PATH
```

C シェル用にリセットするには、次を入力します。

```
% setenv LD_LIBRARY_PATH ¥
$ORACLE_HOME/lib:${LD_LIBRARY_PATH}
```

注意： 以前の Developer/2000 リリースのインストール時に LD_LIBRARY_PATH が設定されており、それを現在のインストール構成に合わせて設定する場合は、以前の \$ORACLE_HOME/lib のエントリをパスから削除します。

GUI の設定

この項では、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server の GUI 環境の準備方法を説明します。この項では次の内容について説明します。

- [X および OSF/Motif に関する問合せ](#)
- [キー定義ファイルの再配置](#)
- [X Window システム環境と Motif 環境の設定](#)

この項では、X Window システムや Motif のクライアント / サーバー・アーキテクチャを含め、X Window および OSF/Motif の設定と管理に関する実際上の知識が読者にあることを前提としています。

X および OSF/Motif に関する問合せ

Oracle カスタマの方は、Oracle 製品に関するすべての問題を、オラクル社カスタマ・サポート・センターにお問合せができます。ただし、オラクル社では、オペレーティング・システム・ベンダーによって提供された X Window システムまたは Motif に関する技術サポートは

提供していません。X Window システムまたは Motif に関する質問は、貴社内の担当者、オペレーティング・システム・ベンダーまたは Motif ベンダーにお問い合わせください。

注意： Oracle では、PC Xserver エミュレータをサポートしていません。PC 上のエミュレータに問題がある場合は、サーバーのコンソール上でその問題が再現するかどうかを確認します。

キー定義ファイルの再配置

インストールが完了すると、X11 キー記号ファイル `XKeysymDB` は `$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin` ディレクトリ内に格納されます。Oracle Forms Server および Oracle Reports Server が稼働するすべてのマシンの `/usr/openwin/lib/X11` ディレクトリに `XKeysymDB` ファイルをコピーする必要があります。ファイルをコピーするには、次の手順を実行します。

1. root ユーザーとして、`$ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin` ディレクトリに移動するには、次のように入力します。

```
# cd $ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin
```

`/usr/openwin/lib/X11` ディレクトリが存在しない場合、次のように入力して作成します。

```
# mkdir /usr/openwin/lib/X11
```

2. `XKeysymDB` ファイルを設定します。

`/usr/openwin/lib/X11` 内にあるバージョンの `XKeysymDB` がある場合は、新しいファイルをそのまま使用するか、または既存のファイルとマージするかを決定します。新しいファイルを使用する場合は、既存のファイルを改名して保存しておくことができます。

- 元のファイルを保存するには、次のように入力します。

```
# cd /usr/openwin/lib/X11
# mv XKeysymDB XKeysymDB.OLD
# cd $ORACLE_HOME/guicommon6/tk60/admin
```

- 新しいファイルと既存のファイルをマージするには、システム・エディタを使用して、保持する古い内容を新しいファイルに追加します。
- 新しいファイルをインストールするには、次のように入力します。

```
# cp XKeysymDB /usr/openwin/lib/X11
```

注意： アプリケーション・コードは、起動時に XKeysymDB ファイルを読み込みます。アプリケーション・コードがこのファイルを見つけられない場合、または関連する OSFkeysym 値が一部不足している場合は、いくつかのファンクション・キーが正常に機能しない可能性があります。この場合、次のような警告メッセージが表示されることがあります。

```
Warning:translation table syntax error:Unknown
keysym
name:osfUp
Warning: ...found while parsing ' <Key>osfUp:
ManagerGadgetTraverseUp ()'
```

3. root ユーザー・アカウントを終了します。

X11R4 環境で動作する Oracle Motif アプリケーションは、各国語サポート (NLS) データ・ファイルのロケート機能を備えていません。この制約以外は、X11R4 環境で動作する Oracle Motif アプリケーションは、X11R5 環境で動作するアプリケーションと同じ機能を備えています。

X Window システム環境と Motif 環境の設定

この項では、次のトピックについて説明します。

- [DISPLAY 環境変数の設定](#)
- [xhost ユーティリティによる画面アクセスの制御](#)

DISPLAY 環境変数の設定

ローカル・ワークステーション以外のマシンで Oracle Forms Server および Oracle Reports Server を実行する場合、リモート・マシンの DISPLAY 環境変数に X Window 画面名を設定します。これにより、ウィンドウを表示するマシン、サーバー、および画面がアプリケーションに通知されます。

X Window 画面名の形式は次のとおりです。

```
machine_name : server.screen
```

この場合、

<code>machine_name</code>	使用するマシンの名前を指定します
<code>server</code>	サーバーの順次コード番号を指定します
<code>screen</code>	画面の順次コード番号を指定します (オプション)

たとえば、作業中のワークステーションが `bambi` という名前で、`godzilla` という名前のより大きなマシンから Motif Forms を実行するとします。

Bourne シェルおよび Korn シェルでは、`godzilla` から次のように入力します。

```
$ set DISPLAY=bambi:0.0; export DISPLAY
```

C シェルでは、`godzilla` から次のように入力します。

```
% setenv DISPLAY bambi:0.0
```

この例では、最初のゼロは `bambi` 上で実行している最初のサーバーを表します。2 番目のゼロは、そのサーバーが管理する最初の画面を表します。通常、サーバーおよび画面はワークステーションまたは X 端末ごとに 1 つのみです。その場合には、画面の指定は省略できます。

xhost ユーティリティによる画面アクセスの制御

通常の X サーバーでは、明示的に許可を与えない限り、他のマシンで作業しているユーザーは画面上のウィンドウを表示できません。この制限は、アクセス・ファイル `/etc/Xn.hosts` によって実行されます。`n` は画面番号です。`xhost` ユーティリティを使用すると、サーバーへのアクセス権の付与または拒否を対話的に行うことができます。

リモート・システムにアクセス権を付与するには、`xhost` を実行し、オプションのプラス記号 (+) を先頭に付けて名前を指定します。アクセスを拒否するには、マイナス記号 (-) を先頭に付けます。ホスト名を付けずにプラス記号のみを指定すると、`/etc/Xn.hosts` にリストされていてなくても、利用可能なすべてのシステムにアクセス権が付与されます。ホスト名を付けずにマイナス記号のみを指定すると、`/etc/Xn.hosts` ファイルにリストされているシステムのアクセス権が制限されます。

引数を付けずに `xhost` を実行すると、`/etc/Xn.hosts` ファイル内のホストのリストが出力され、現在画面へのアクセス権を持っているかどうかが表示されます。

たとえば、作業中のワークステーションは `bambi` という名前で、リモート・マシン `godzilla` にアクセス権を付与するとします。`bambi` から次のように入力します。

```
$ xhost +godzilla
```

無制限かつ未指定のアクセスを許可するには、次のように入力します。

```
$ xhost +
```

注意： あるマシンにアクセス権を付与した場合、そのマシンのすべてのユーザーが、アクセス権の付与されたマシンの X サーバーにアクセスできるようになります。たとえば、マシン `godzilla` に `bambi` へのアクセス権を付与すると、`godzilla` のすべてのユーザーが `bambi` X サーバーにアクセスできるようになります。

Windows クライアントの設定

Oracle Jinitiator または Applet Viewer に配置する Oracle Forms、Oracle Reports および Oracle Graphics を設定できます。この項では、これらのオプションについて説明します。

Oracle Jinitiator の設定

Oracle Jinitiator plugin は、Netscape Navigator または Microsoft Internet Explorer のいずれのブラウザでも使用できます。これらのブラウザの使用中に Oracle Forms CGI を使用して Oracle Form を実行すると、Oracle Forms Server は自動的に Jinitiator プラグインをダウンロードし、ブラウザにインストールします。

Applet Viewer の設定

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server リリース 6i には Windows 用のアプレット・ビューアが含まれています。この Windows 用アプレット・ビューアは、Windows プラットフォームにインストールすると Oracle Forms Server および Oracle Reports Server のクライアントとして使用できます。

関連項目： このアプレット・ビューアを Windows にインストールし、実行する手順は、リリース・ノートに記載されています。

Oracle Forms、Oracle Reports および Web 用 Oracle Graphics の詳細は、『Oracle Forms Developer and Oracle Reports Developer アプリケーション作成ガイド』を参照してください。このマニュアルは、
\$ORACLE_HOME/doc60/admin/manuals/JA/guide60/atgtoc.htm ディレクトリにあります。

その他の言語の使用可能化

この項では、さまざまな言語を使用してツールを実行できるように環境を設定する方法を説明します。

デフォルト言語（英語）以外の言語で Oracle Forms Server および Oracle Reports Server を実行できるようにするには、次の作業を実行します。

- [NLS_LANG 変数の設定](#)
- [Tk2Motif*fontMapCs の設定](#)

注意： Oracle Forms および Oracle Graphics Runtime ファイルが、以前に別の NLS_LANG 設定で生成されている場合、再生成する必要があります。

NLS_LANG 変数の設定

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server 製品では、使用する言語地域と端末の文字セットの決定に NLS_LANG 環境変数が使用されます。NLS_LANG は、次の手順で設定します。

Bourne および Korn シェルの場合、次のように入力します。

```
$ NLS_LANG=language_territory.character_set
$ set export NLS_LANG
```

C シェルの場合、次のように入力します。

```
% setenv NLS_LANG language_territory.character_set
```

この場合、

language サポートされる言語です

territory サポートされる地域です

character_set ユーザーの端末でサポートされるキャラクタ・セットです

注意: NLS_LANG が設定されていない場合、デフォルト設定は us7ascii となります。

表 4-1 は、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server 製品がサポートしている NLS_LANG の値を示しています。

表 4-1 NLS_LANG の設定

言語名	<i>language</i> 値	<i>territory</i> 値	<i>character_set</i> 値
アメリカ英語	american	america	us7ascii
オランダ語	dutch	"the netherlands"	we8dec
フィンランド語	finnish	finland	we8dec
フランス語	french	france	we8dec
ドイツ語	german	germany	we8dec
イタリア語	italian	italy	we8dec
日本語	japanese	japan	ja16euc
韓国語	korean	korea	ko16ksc5601
スペイン語	spanish	spain	we8dec
中国語 (簡体字)	"simplified chinese"	taiwan	zhs32eus

表 4-1 NLS_LANG の設定

言語名	<i>language</i> 値	<i>territory</i> 値	<i>character_set</i> 値
中国語（繁体字）	"traditional chinese"	zhp	zht32euc

Tk2Motif*fontMapCs の設定

この項では、Toolkit で Oracle キャラクタ・セットを X キャラクタ・セットと対応付けできるように、Tk2Motif ファイルにエントリを追加する方法を説明します。この設定は、Tk2Motif*fontMapCs と呼ばれます。Tk2Motif*fontMapCs を設定するには、このファイルに次の行を追加します。

```
Tk2Motif*fontMapCs: xset=character_set
```

この場合、

xset X キャラクタ・セット名です

character_set Oracle キャラクタ・セット名です

使用している X Server で利用可能なキャラクタ・セットのすべてのリストを表示するには、次のように入力します。

```
$ xlsfonts | awk -F- '{print $14 "-" $15}' | sort -u
```

この章では、Oracle Forms Server および Oracle Reports Server 製品の管理について説明します。

この章では、次のトピックについて説明します。

- [Oracle Forms の管理](#)
- [Oracle Reports の管理](#)
- [Oracle Graphics の管理](#)

Oracle Forms の管理

Oracle Forms 実行ファイル

表 5-1 に、Oracle Forms 実行ファイル名を示します。実行ファイルは、`$ORACLE_HOME/bin` ディレクトリ内にあります。

表 5-1 Oracle Reports 実行ファイル

コンポーネント	Web 実行ファイル名
Oracle Forms CGI	f60cgi
Oracle Forms Listener	f60webm
Oracle Forms Server	f60srvm
Oracle Forms Web Cartridge	f60webc.so

Oracle Forms の Web での利用

Oracle Forms の Web での利用については、`$ORACLE_HOME/doc60/admin/manuals/JA/guide60/atgtoc.htm` にある『Oracle

Forms Developer and Oracle Reports Developer アプリケーション作成ガイド』を参照してください。

Oracle Forms の再リンク

Oracle Forms を Oracle Forms Server および Oracle Reports Server と再リンクするには、次のように入力します。

```
$ cd $ORACLE_HOME/forms60/lib
$ make -f ins_forms60w.mk install
```

Oracle Forms の再リンクについてのドキュメントは、ins_forms60w.mk ファイルにあります。

Oracle Reports の管理

Oracle Reports 実行ファイル

表 5-2 に、Oracle Reports 実行ファイルを示します。実行ファイルは、\$ORACLE_HOME/bin サブディレクトリにあります。

表 5-2 Oracle Reports 実行ファイル

コンポーネント	実行ファイル名
Reports CGI Executable	rwcgi60
Multi-Tier Server	rwmts60
Queue Viewer	rwrqv60
Reports Client	rwcli60
Reports Web Cartridge	rwows60.so

Oracle Reports の Web での利用

Oracle Reports の Web での利用については、\$ORACLE_HOME/doc60/admin/manuals/JA/guide60/atgtoc.htm にある『Oracle Forms Developer and Oracle Reports Developer アプリケーション作成ガイド』を参照してください。

Oracle Reports の再リンク

Oracle Forms Server および Oracle Reports Server リリース 6i では、Graphics は Reports 実行ファイルに自動的にリンクされます。Oracle Reports は Oracle Graphics なしに再リンクすることはできません。

Oracle Reports を Oracle Forms Server および Oracle Reports Server と再リンクするには、次のように入力します。

```
$ cd $ORACLE_HOME/reports60/lib  
$ make -f ins_reports60w.mk install
```

Oracle Graphics の管理

Oracle Graphics 実行ファイル

表 5-3 に、Oracle Graphics 実行ファイルを示します。実行ファイルは、`$ORACLE_HOME/bin` サブディレクトリ内にあります。

表 5-3 Oracle Graphics 実行ファイル

コンポーネント	実行ファイル名
Graphics Web Cartridge	libgw60.so

Oracle Graphics の Web での利用

Oracle Graphics の Web での利用については、`$ORACLE_HOME/doc60/admin/manuals/JA/guide60/atgtoc.htm` にある『Oracle Forms Developer and Oracle Reports Developer アプリケーション作成ガイド』を参照してください。

Oracle Graphics の再リンク

Oracle Graphics を Oracle Forms Server および Oracle Reports Server と再リンクするには、次のように入力します。

```
$ cd $ORACLE_HOME/graphics60/lib  
$ make -f ins_graphics60w.mk install
```

ユーザー・イグジットの作成

ユーザー・イグジットは、埋込み SQL コマンドを含むサブルーチンです。ユーザー・イグジットは、サンプル・ソース・ファイルを変更して作成できます。

この章では次の内容について説明します。

- [ユーザー・イグジットの作成](#)
- [作成したユーザー・イグジットへのリンク](#)

ユーザー・イグジットの作成

サンプル・ファイル `iapxtb.c` および `ue_xtb.c` はそれぞれ、`iapxtb[]` ユーザー・イグジット配列を宣言します。イグジット表の定義に使用されるファイルを次に示します。

- Oracle Forms では `$ORACLE_HOME/forms60/lib/ue_xtb.c` が使用されます。
- Oracle Reports では `$ORACLE_HOME/reports60/lib/*.c` が使用されます。
- Oracle Graphics では、`$ORACLE_HOME/graphics60/lib/iapxtb.c` が使用されます。

ユーザー・イグジットを作成するには、次のように入力します。

1. 各ユーザー・イグジットのサンプル・ソース・ファイルにエントリを追加します。サンプル・ソース・ファイルを次に示します。

```
/* Define the user exit table */
extern exitr iapxtb[] = { /* Holds exit routine pointers */
    "UE_OK",          ue_ok, XITCC,
    "UE_ERR",         ue_err, XITCC,
    "UE_MB",          ue_mb, XITCC,
    "UE_EMP_PLAN",   ue_emp_plan, XITCC,
    (char *) 0, 0, 0 /* zero entry marks the end */};
/* end iapxtb */
```

エントリ内の最初の項目（二重引用符内）は、Tool がユーザー・イグジットを参照する際に使用する名前です。2 番目の項目は、ユーザー・イグジット・ルーチンの実際の名前です。ユーザー・イグジットの名前は 30 文字以内の英数字で、先頭が文字である必要があります。最後の項目（XITCC）は、ユーザー・イグジットが C 言語の呼び出し規約を使用してコールされることを示します。その他の言語の場合は、次のいずれかを使用します。

- XITCOB /* COBOL */
 - XITFOR /* FORTRAN */
 - XITPLI /* PL/I */
 - XITPAS /* Pascal */
 - XITAda /* Ada */
2. ソース・ファイルを変更してから、ユーザー・イグジット・プログラムとともにコンパイルします。次に、コンパイルの結果作成された IAPXTB オブジェクト・ファイルを、製品の実行ファイルにリンクします。

作成したユーザー・イグジットへのリンク

ユーザー独自のユーザー・イグジット内でリンクするには、コマンドライン上で、ユーザーが作成したユーザー・イグジット表ファイルおよびユーザー・イグジットで EXITS Make ファイル・マクロを上書きします。次の項では、Oracle Forms、Oracle Reports および Oracle Graphics へのリンクについて説明します。

Oracle Forms へのリンク

ユーザー・イグジットを Oracle Web Forms にリンクするには、次のように入力します。

```
$ cd $ORACLE_HOME/forms60/lib
$ make -f ins_forms60w.mk EXITS="my_iapxtb.o ¥userexit1.0 userexit2.0
..." f60webmx
```

次に、デフォルトの Web Forms f60webmx エンジン、次のように入力して、新たに再リンクしたコピーに置き換えます。

```
$ mv f60webmx $ORACLE_HOME/bin/f60webm
```

Oracle Reports へのリンク

作成したユーザー・イグジットを Reports Web エンジンにリンクするには、次のように入力します。

```
$ cd $ORACLE_HOME/reports60/lib
$ make -f ins_reports60w.mk ¥
```

```
EXITS="my_iapxtb.o userexit1.0 userexit2.0 ..." rwrun60x
```

次のように入力して、デフォルトの Reports Runtime エンジン を、新しく再リンクしたユーザーの実行ファイルに置き換えます。

```
$ mv rwrun60x $ORACLE_HOME/bin/rwrun60
```

Oracle Graphics へのリンク

Oracle Graphics Web カートリッジへのユーザー・イグジットのリンクは、現在サポートされていません。

索引

D

Developer/2000
概要, 1-2
Developer/2000 の概要, 1-1

G

Graphics
概要, 1-2
管理, 5-3
実行ファイル, 5-3

M

Motif
Developer Tools のサポート, 1-5

O

Oracle Installer の使用方法
インストールの検証, 4-1
CD のマウント, 3-1
ORACLE_BASE、設定, 2-6
ORACLE_HOME
oracle アカウント・ホーム・ディレクトリ, 2-2
設定, 2-6
ORACLE_TERM
設定, 2-6
Oracle8 Server
マニュアル, 1-7
oracle アカウント
作成方法, 2-1
ホーム・ディレクトリ, 2-2
要件, 2-1

R

Reports
管理, 5-1, 5-2
実行ファイル, 5-1, 5-2

T

TWO_TASK、設定, 2-7

U

UNIX アカウント
作成方法, 2-1

W

Web インタフェース, 1-5

あ

アカウント
oracle アカウントの作成, 2-1

い

インストール
オプション, 1-2
クライアントベースの, 1-2
サーバーベースの, 1-2
インストール作業, 3-1
インストール前の作業, 2-1

お

オペレーティング・システムの要件, 1-8
オンライン・ヘルプ, 1-5
オンライン・マニュアル, 1-5

か

概要

Developer/2000, 1-2
各国語サポート, 1-12, 4-14
環境の設定, 2-1
管理
Graphics, 5-3
Reports, 5-1, 5-2

き

キャラクタ・モード
Developer Tools のサポート, 1-5
キュー・カード, 1-6

く

クライアントベースの
インストール, 1-3
図, 1-3

さ

再リンク

Forms, 5-2
Graphics, 5-3
Reports, 5-2

し

実行ファイル

Graphics, 5-3
Reports, 5-1, 5-2

実装

Motif, 1-5
Web, 1-5
キャラクタ・モード, 1-5

す

スワップ領域要件, 1-7

せ

制限事項, 1-12

て

ディスク領域とメモリー要件, 1-10
データベース・オブジェクト, 3-17

は

ハードウェア要件, 1-7

ひ

必須変数の設定, 2-4

ふ

プリンタ構成ファイル
設定, 4-2

へ

ヘルプ

オンライン, 1-5
状況判断, 1-6

ほ

ホーム・ディレクトリ, 2-2

ま

マニュアル

Oracle8 Server, 1-7
オンライン, 1-5

め

メモリの要件, 1-10

ゆ

ユーザー・インタフェース要件, 1-9

よ

要件

- CPU, 1-7
- oracle アカウント, 2-1
- server, 1-9
- SUNWarc, 1-8
- SUNWbtool, 1-8
- SUNWlibm, 1-8
- SUNWlibms, 1-8
- SUNWsprot, 1-8
- SUNWtoo, 1-8
- オペレーティング・システム, 1-8
- 再リンク, 1-10
- スワップ領域, 1-7
- ディスク領域とメモリー, 1-10
- データベース, 1-9
- ハードウェア, 1-7
- メディア・デバイス, 1-7
- メモリー, 1-7
- ユーザー・インタフェース, 1-9

